

科目名	宗教学的人間論		対象 単位数 必修	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修
担当教員	福島 寅太郎			
開講期	前期			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①本学の建学精神を理解するために必要な教養的知識を習得させる。 ②教養のある現代人として宗教に関する必要な知識を身につけさせる。</p> <p>〔授業の概要〕</p> <p>本講義は本学の建学精神に基づいた全学科・専攻の必修科目である。 宗教は人間生活のあるところ、どの時代にもどの場所にも影響を及ぼしており、現在の私たちもまた日常生活の中で常にそれらと関わっている。グローバル化が進み、異文化間の相互理解が求められる現代において、宗教は果たしてどのような役割を果たすことができるのであろうか。</p> <p>本講義は、諸宗教の思想や信仰、特に現代日本およびアジアの諸宗教におけるさまざまな事例を取り上げ、宗教学的観点から探ることを目的とする。授業への理解を深めるために、アニメなどの映像を数多く取り扱う予定である。ちなみに「トトロはオスですか、それともメスですか」。素朴な疑問が学問への重要な一歩である。</p> <p>本年度は、本学の学問の特徴である「生活学」に焦点を当てて、宗教と生活との関わりを考えてみたい。具体的には、当該当該問題に関連した最新の研究書を教科書として用い、当該教科書の読解を通じて理解を深めていきたいと考えている。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①宗教学的“ものの見方”を理解する。 ②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。</p>			
達成目標	<p>〔到達目標〕</p> <p>①宗教学的“ものの見方”を理解する。 ②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。</p>			
受講資格	特になし	成績評価 方法	試験成績60点、授業における発表20%、授業における参加態度20%など。理解度8割で、合とする。	
教科書	『中国仏教と生活禅』（浄慧著、東京・山喜房佛書林、2017年）。購買部で買い求めることができる。教室でも販売する。			
参考書	特になし。			
学生への要望	ノートをこまめにとること。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日（火曜日を除く）昼休みの時(12時～12時40分)。担当教員の研究室（創学館No.5）			
自学自習	・事前に毎回1時間程度の学習をすること。 ・事後にノートの整理などに1時間程度の学習をすること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進み方、建学精神との関連について述べるとともに、テストや成績評価などについて紹介する。教科書についても案内する予定である。
2	生活と宗教（1）～アップル製品は何故シンプルか～	具体的には禅を取り上げる。禅の歴史や基本的な教えについて、教科書に沿って述べる。アップルの創始者・ジョブズ氏は敬虔な禅の実践者である。シンプルさを追求したアップル製品を話題にしなが、生活における禅の役割を考える。
3	生活と宗教（2）～今どうして禅なのか～	前回の続き。教科書に沿って、禅とは何かを、身近な話題を通して考える。
4	生活と宗教（3）～今はどうして生活禅なのか～	「生活禅」とは何か。教科書を通して学びながら、一緒に考えてみる。
5	生活と宗教（4）～ダルマとは誰か～	「達磨さんが転んだ」という鬼ごっこをみんなは一度ぐらい遊んだことがあろう。ここに出てくる達磨さんとは誰のことであらうか。歴史上の達磨さんと民間信仰のそれとの異同を明らかにしてみたい。
6	生活と宗教（5）～般若心経とはどんな教えを説いているのか～	『般若心経』と生活禅について述べる。日常生活の中で、『般若心経』に触れる場面があると思う。ここでは教科書を用いながら『般若心経』とはどんなお経なのかを学ぶと共に、生活禅との関係を理解する。
7	生活と宗教（6）～心の三次元～	心とは何か。宗教は人間の不可視的なものを可視化する文化的装置である。ここでは宗教から見た人間の心とは何かを、禅における心のとらえ方を通して理解する。
8	生活と宗教（7）～心の成長物語～	前回の続き。具体的には『十牛図』という最古のマンガを通して理解を深める。
9	生活と宗教（8）～悩みはどこから来るのか～	悩みとは何か。禅における悩みの対処法を、教科書を通して理解する。
10	生活と宗教（9）～特別授業～	気分転換のために、アニメにおける宗教的要素について考察する。具体的には『となりのトトロ』を取り上げる。
11	生活と宗教（10）～特別授業～	前回の続き。ちなみに、トトロの性別はオスか、それともメスか。素朴な疑問が学問への重要な第一歩である。
12	生活と宗教（11）～生活と宗教との関わり～その一	再び教科書に戻る。「生活の中で修行し、修行の中で生活する」という教科書の著者の言葉を理解しながら、生活と宗教との関わりを考える。
13	生活と宗教（12）～生活と宗教との関わり～その二	前回の続き。人間らしく生きるためにはどうしたらいいか、人間の本質とは何かについて教科書を参考にしながら、考えてみる。
14	生活と宗教（13）～まとめ～	これまでの授業の全体についてまとめると共に、期末テストについて説明する。
15	最終回～まとめ～その②	授業の内容を踏まえつつ、建学精神である「尊敬・責任・自由」の意義を再び考えることにする。

科目名	哲学的人間論	対象 単位数 必修	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修
担当教員	小阪 康治		
開講期	前期		
授業概要	<p>哲学の目的は、人間のあり方について、人間のいちばん本質的なところから、自分で考えてみることにあります。哲学の長い歴史の過程で、正確な知識とはなにか、なにが理想なのか、などの問題が出てきました。それで講義は、具体的な事例を説明することを中心にします。理屈ばかりの話は、哲学本来のものではありません。実際の生活に基づいて、それと理論との関係は話しますが、一番重要なのは、受講者が自分自身で、人間や人間社会について考えることなので、この練習もします。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>① 哲学的な知識は身についたか。 ② 哲学的な考え方についてどの程度理解できたか。 ③ 哲学的に考えを書くことがどの程度理解できたか。</p>		
達成目標	<p>哲学の目的は、人間のあり方について、人間のいちばん本質的なところから、自分で考えてみることにあります。哲学の長い歴史の過程で、正確な知識とはなにか、なにが理想なのか、などの問題が出てきました。それで講義は、具体的な事例を説明することを中心にします。理屈ばかりの話は、哲学本来のものではありません。実際の生活に基づいて、それと理論との関係は話しますが、一番重要なのは、受講者が自分自身で、人間や人間社会について考えることなので、この練習もします。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>① 哲学的な知識は身についたか。 ② 哲学的な考え方についてどの程度理解できたか。 ③ 哲学的に考えを書くことがどの程度理解できたか。</p>		
受講資格	特になし	成績評価方法	試験30%。講義時間内の発言30%。小論文40%。
教科書	受講者と相談して決める。		
参考書	受講者と相談して決める。		
学生への要望	<p>現在の社会は、積極性のある人材を望んでいるので、なによりも積極的に発言し、ときどき課外小論文などでも、前向きな思考法身につけるつもりで講義に臨んで欲しい。講義への反応、学生諸君の興味、関心などを考え合わせ、また社会状況におうじて、講義のテーマや内容は、変えることもありますので、シラバス通りにはならないこともあります。講義は、分かりやすく、面白く、ためになるようにやります。なので、ノートをきちんと取る、自分の頭で考えることを要望します。従って、講義のテーマについて事前に考え、講義後にもう一度自分の考えをまとめることが、講義をよく理解するために必要です。それは小論文や試験の際に役に立ちます。</p>		
オフィスタイム	火、水曜日昼休み。研究室		
自学自習	予習より復習を重視して欲しい。各回のテーマの中から試験問題が出るので、講義後、ノートの整理だけでなく、テーマについての自分の考え方をまとめておくことと試験時に良い結果が出ると思う。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義の内容、目的、方法の説明	<p>学問としての哲学的人間学を概観します。哲学的人間学というと、ものものしいのですが、ようするに人間が生きていくときに遭遇するいろいろな問題を、きちんと考えようとする学問です。そこで15回分の講義の内容を概略説明します。それから講義の進め方、ノートの取り方、講義中の積極性、小論文練習の役割、出欠、これらの評価にもとづいて成績をつけるときの基準などを説明します。</p>
2	どうしたら幸せになれるか	<p>おそらくすべての学問は、人間が幸せになることをひとつの目標としています。この回では、哲学的に考えて幸せになるとはどういうことかを、考えてみます。私はチョコレートパフェが好きで、チョコレートパフェをおなか一杯食べると幸せだろうとおもうが、そんなことはできない。ダイエットばかり気にしているのもストレスがたまって、これまた幸せじゃない。なにが、どういう行為が、どういう精神状態が幸せなのか、これについても哲学は長い時代にわたって、いろいろ考えてきました。</p>
3	哲について	<p>哲学はむずかしいとよく言われます。いろいろな原因はありますが、そのひとつに「哲」という漢字の意味が分からないことがあるようです。この字は、哲夫君とか哲太郎君のように、固有名詞では使いますが、それ以外ではほとんど見ない。女性で哲子さんという名だと、付き合いたくないなあ、というイメージにもなります。哲学は明治になって西洋から来た学問なので、英語のPhilosophyなどの外国語を訳したのですが、それ以前にも哲学的な考えが日本になかったわけではありません。それで漢字の「哲」の字を当てはめて訳語としたのです。この回は、哲学とはどういうものかという、哲学の一番本質の意味について講義します。</p>
4	自由について	<p>現代は、自由が最も大事な人間の権利になっているのは、周囲のことです。しかし、現実のさまざまな問題では、自由をどの程度認めているのか判断に困る事例も沢山出てきています。今回は、いろいろな問題の中で、自由が認められるケースとそうでないケース、年齢による制限などを考察します。</p>
5	論文練習	<p>3～4回に1回くらい、これまでの時間の内容について、論文練習をします。この練習の目的は、学生の側からは、①これまでの講義をどれだけ理解できているかを自分で振り返ってみる。②論文練習をすることで、学期末の試験の練習になる。③採用試験時の筆記試験の対策にもなる。教える側からすると、①自分の頭で物事を考えさせる訓練になる、②みんなで答案を検討するので、論文の書き方を具体的に理解させることができる、③教えたことをどれだけ理解しているかを点検できる、などです。</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
6	赤い花は赤いか	思想や哲学というのは、数学のようにきちんと回答が出るものではありません。しかしそれではただの評論になるので、確実な知識を求めていくと、こういう問題も出てきました。 ひとつの赤い花をおおぜいが見ると、座ってる角度や距離によって、おなじ赤でもすしずつちがって見えています。どうやったらおなじ赤を全員が見ることができるのか。赤とはどういう色なのか、などの問題が出てくるわけです。 これは屁理屈ではなく、ものごとをきちんと考えようとすると、こういう方向に深まっていくというひとつの例なのです。
7	ビッグ・アイはなぜあるか	子どものころ、なぞなぞというのか、とんち話というのがありました。大阪城はだれがつくったか。「豊臣秀吉」と答えると間違いで、「大工さん」が正解でした。 郡山の駅を降りるとビッグ・アイがあります。ビッグ・アイはだれがつくったのか？「大工さん」だけではできない。これに似たことを、紀元前300年も前に、アリストテレスという人が言ってる。この話は、ものがあるのはいったいなぜなのか、どうしてもものがあると言えるのか、など哲学の本格的な課題につながっていきます。
8	古い時代の思想の読み方	古い時代の思想は『古事記』や『旧約聖書』『新約聖書』など見られるように、おとぎ話的なフィクションに満ちたもので、きちんとした思想のように思えません。しかしその頃の思想を知るのに、ほかに文献がないので、これらの書物に頼らざるを得ません。するとこれらの本をどういう風に読んだらいいかを研究する必要が出てきます。この時間は古い時代の文献の読み方を考えてみます。
9	論文練習	これまでの3回分について、前回述べた目的で、小論文の練習をします。
10	私は誰か	さまざまなことを考えたり、行動したり、他人と付き合ったりするのは自分です。ここには自分がいるという前提がある。しかし仏教思想では、自分というものさえ本当はないのだ、と語られています。わざわざ仏教思想を持ち出さなくても、諸行無常という言葉に代表される考えは、おおくの日本人が共有しています。 この講義は、ほとんどが西洋思想を基礎にしたものですが、今回は東洋思想を中心に自分だけか、自分はどのようにあるのか、そもそも本当にあるのかなど、自分自身についての問題を考えてみます。
11	家庭とは何か	本学の教育理念は、ドイツの哲学者であり教育学者であるオットー・フリードリッヒ・ボルノー先生の思想の影響を強く受け、先生の思想を受け継いでいます。 これにもとづいて、本学の教授陣が執筆した『家政哲学』が刊行されています。今回はこの思想を、分かりやすく説明します。 個人だけでは人間は生きていきません。それで社会をつくった。社会のなかで生活することで人間は豊かに安心して生きていける。ところが社会では、おたがいの利益が相反する場合があるのがふつうです。社会人としてお互いの利益を守るために、互いの人間性を尊重し、協力し、愛し合うことを、どこで学ぶのか。 個人と社会の中間にある家庭が、それらの育成のための場所ではないのか。家庭を中心に個人と社会を調和させるために、本学建学の精神の特徴があります。 またアメリカと我が国における家庭の在り方について比較してみます。
12	永遠の愛は可能か	むずかしい問題を考えるばかりが哲学ではありません。哲学は、われわれが日常疑問におもっていることを、きちんと考えようとして、だんだん深くっていっただけです。「永遠の愛は可能か」というテーマは、おそらく古今東西、若者にとって最大の問題のはずです。ギリシャの哲学者たちもこういう問題を考えた。 この問題について、友達と一晩中議論してもなかなか結論は出ない。疲れて寝てしまって、また次の週に同じような議論をしても、やっぱり結論には行きつかない。 どうしてそんなことになるのか。それは問題自体を分析してから考えを進めていくことに慣れていないからです。この回は、問題と同時に、哲学的に考える方法について話してみます。
13	論文練習	これまでの3回分について、前回述べた目的で、小論文の練習をします。
14	福祉と正義について	社会福祉に財源が必要なのはとうぜんなのですが、ほかにもお金がいる分野はある。医療、防衛、経済対策、地震からの復興にもたくさんのお金が必要です。どこにお金を振り分けるべきなのか。電力供給のための発電所の建設か、それとも復興支援が優先するのか、防波堤がいちばん先ではないのか。などの議論です。 そういう大きな問題だけでなく、たとえば、この間の地震でも、透析の機械が不足していました。機械がひとつで危篤の患者さんが3人いるときに、どの患者さんに透析するのか。若い子どもが3人もいる夫のいない母親と、高名な科学者と、働き盛りのおとうさんについて、優先順位の基準はなんなのか。 正義とはなにか、こういう問題を考えます。
15	論文練習	最初に、論文の書き方をまとめて説明し、今学期全体のテーマについてみんなで考えてから、いつもの小論文を書きます。

科目名	倫理学的人間論		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択
担当教員	小阪 康治			
開講期	後期			
授業概要	<p>この講義の目的は、われわれが日常生活で「変だなあ」とか「まちがってるんじゃないかなあ」とおもっていることが、正しいかどうかを考えてみることです。友だちとの会話や、家族との何気ない雑談、恋人との話しの中でも、「納得できないなあ」とおもうのは、いつものことです。それが社会的な問題になると、テレビや新聞の意見などを聞いていても、「そうかなあ、ちがうんじゃないかなあ」と疑問をもつこともしょっちゅうでしょう。こういう問題は学問的に言うと倫理とか道徳という領域になります。</p> <p>個人的な問題、社会的な課題だけでなく、さらに国際的、地球規模の事件などについて、なにが正しい解決法で、なにが答えなのかを、いろいろな実際の例について講義し、受講者といっしょに考えます。</p> <p>講義は分かりやすく、面白く、為になることを目標に行なうつもりです。</p> <p>[履修カルテの評価項目]</p> <p>① 倫理的な知識は身についたか。 ② 倫理的な考え方をどの程度理解できたか。 ③ 考えを倫理的に書くことがどの程度できるようになったか。</p>			
達成目標	<p>この講義の目的は、われわれが日常生活で「変だなあ」とか「まちがってるんじゃないかなあ」とおもっていることが、正しいかどうかを考えてみることです。友だちとの会話や、家族との何気ない雑談、恋人との話しの中でも、「納得できないなあ」とおもうのは、いつものことです。それが社会的な問題になると、テレビや新聞の意見などを聞いていても、「そうかなあ、ちがうんじゃないかなあ」と疑問をもつこともしょっちゅうでしょう。こういう問題は学問的に言うと倫理とか道徳という領域になります。</p> <p>個人的な問題、社会的な課題だけでなく、さらに国際的、地球規模の事件などについて、なにが正しい解決法で、なにが答えなのかを、いろいろな実際の例について講義し、受講者といっしょに考えます。</p> <p>講義は分かりやすく、面白く、為になることを目標に行なうつもりです。</p> <p>[履修カルテの評価項目]</p> <p>① 倫理的な知識は身についたか。 ② 倫理的な考え方をどの程度理解できたか。 ③ 考えを倫理的に書くことがどの程度できるようになったか。</p>			
受講資格	特になし	成績評価 方法	試験 30%。講義時間内の発言 30%。小論文 40%	
教科書	受講者と相談して決める。			
参考書	受講者と相談して決める			
学生への要望	以上のような内容なので、受講者自身が考えることがたいせつです。学生もそのつもりで講義に臨んで欲しい。今春、本学に着任したばかりなので、講義の内容や方法については、受講者の反応を見たり、興味のある問題を聞いたりして、随時、テーマや、やり方を変更しながら進めていくつもりです。			
オフィスタイム	火、水曜日昼休み。研究室			
自学自習	予習より復習を重視して欲しい。各回のテーマの中から試験問題が出るので、講義後、ノートの整理だけでなく、テーマについての自分の考え方をまとめておくことと試験時に良い結果が出ると思う。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	倫理学について	倫理学という領域を概観します。それから15回分の講義の内容を概略説明します。講義の進め方、ノートの取り方、講義中の積極性、小論文練習の役割、出欠、これらの評価にもとついて成績を付けるときの基準などを説明します。
2	なぜ嘘をついてはいけないのか	なぜ嘘をついてはいけないのか、なぜ他人のものを盗ってはいけないのか、なぜ人を殺してはいけないのか、こういう当たり前のことも、なぜなのか、とその根拠を訊ねられるとかんたんに答えは出ません。当たり前でしょ、決まってることだから、と言っても、答えにはなっていません。あなたも嘘をつかれたくないでしょ、だから他人にも嘘をついてはいけない、というのは一応の倫理的な回答なのですが、嘘をつかれてもいい、という人もいます。たとえば、末期の癌患者さんのなかには、事実を知りたくないと言う人はすくなくならずいます。この時間では、こういう倫理問題の基本になる問題群を、分析してみます。
3	乗り物の中で、お年寄りに席を譲らない若者は悪人か	新聞の読者の声欄には、半年に1度くらいはかならず、近頃の若者はお年寄りに席を譲らなくなった、こんな若者ばかりになったら日本もおしまいだ、という論調の記事が出ます。若者の立場からは、譲らないのは若い者ばかりじゃないとか、こっちは疲れてるんだからという反論もあります。この講義ではふたつの問題を検討します。第1に、なぜ席を譲るのは善いことで、譲らないのは悪いことなのか。その理由はなにか。第2に、人間は本来、善い者なのか、悪い者なのかという問題です。
4	未来世代への責任	前任の大学で、この問題について講義をしていたときは、まったく客観的な立場でした。しかし東北・関東大震災による福島原子力発電所の事故に遭遇した後では、この問題は他人事ではなくになりました。原子力発電の問題は、現代人が快適な生活を送ることとそれによる危険性をどう比較するか、さらに数百万年の後でも有害な物質を後の世代の人類に廃棄することとどう比較するか、という問題になります。また、関東で使う電力をなぜ福島県で発電するのかも、今回の事故であらためて議論されるでしょう。しかし現実には、原子力発電を止めると、電力の30%以上が使えなくなります。それで人々は納得するのか。この問題の根本には、われわれ自身が、自分たちの生活の豊かさ、快適さをどの程度まで求めるかという課題があります。とくに若い人たちが自分たちの社会をどうつくっていくかということなのです。
5	論文練習	3～4回に1回くらい、これまでの時間の内容について、論文練習をします。とくにこの講義は、自分の頭で考えることが最終目的ですから、講義を聞いて理解するだけでは、講義の目的には到達しません。この練習の目的は、学生の側からは、①これまでの講義をどれだけ理解できているかを自分で振り返ってみる。②論文練習をすることで、学期末の試験の練習になる。③採用試験時の筆記試験の対策にもなる。教える側からすると、①自分の頭で物事を考えさせる訓練になる、②みんなで答案を検討するので、論文の書き方を具体的に理解させることができる、③教えたことをどれだけ理解しているかを点検できる、などです。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
6	捕鯨について、どうして日本人は外国人から非難されるのか	日本の捕鯨は、外国からはたいへん評判が悪い。鯨を食べていけないのなら、豚や牛も食べてはいけないはずだ、と日本人はおもってる。豚や牛だけでなく羊や鶏などを、日本人以上に大量に食べている西欧人から、捕鯨について批判されるいわれはない。これが日本人一般の気もちでしょう。 ところが外国人は、豚や牛を食べるのは構わないけど、鯨は食べないと考えているようだ。変じゃないか、と考えるのは日本人で、外国人は当たり前だとおもってるわけです。 このちがいは、お互いの文化のなかの無意識の倫理観が異なっているからだと考えられます。昨年、ポーランドのワルシャワ大学でこの問題について講演しました。その反応や質疑なども含めて講義します。
7	電車の中の化粧をどう考えるか	電車の中の化粧が、社会問題になっています。都会だけでなく地方都市のローカル線のなかでも見かけました。アンケートなどを見ると、年上の人たちが批判的で、若い女性は車内化粧しない女性でも、肯定的な人がかなりいます。 みっともない、電車のなかは公共の場であって、化粧する場所じゃない。忙しいから電車のなかの時間も有効に使いたい、だって誰にも迷惑かけてないじゃない。 中年の女性でもしてる人を見かけるけれども、この問題にはふたつの面がある。まず世代による倫理意識のちがいでしょう。時代が変化するにつれて、倫理基準も変化します。それを上の世代はどこまで許容するか、否定できるか。もうひとつは、他人への迷惑とは、具体的にどういうことか。どこまでが迷惑で、どこからは黙認されるべきか。そのための基準はあるのか。
8	迷信について	我々の生活には迷信がおおくあります。北枕、夜笛を吹いてはいけない、霊柩車を見たら親指隠せ、病院には4号室がないなど、たくさんの迷信を我々は知っていて、そのいくつかは実際に恐れてもいます。 この時間は迷信といわれるものの中にも、合理的な思想がある場合を取り上げて、思想と迷信の差異を考えてみます。
9	論文練習	これまでの3回のテーマについて、先に述べた目的で、小論文の練習をします。
10	説明はなぜ必要か	最近、テレビなどで、説明責任を果たしていない、という議論をときどき聞きます。ところが非難しているほうも、なぜ説明しなければいけないのか、どう説明すればいいのかなど、どこまで説明すれば納得できるのかなど、はっきりしないままに非難ばかりしている。守秘義務というものもあるから、なんでも全部説明すればいいというわけでもありません。 これはわれわれ人間の本質的な在り方に関係してくるのです。なんのために説明するのか。われわれ人間の尊厳を守るためです。これはきわめて倫理的に根本的な問題なのです。なぜ東京電力が原子力発電所の事故についてはっきり説明しなければならぬのか、政府が震災被害の人びとに原状をきちんと説明すべきなのか、大学の先生はなぜ成績の付け方について学生に説明しなければならないのか、友達同士の説明など、いくつかの事例によってこの問題を考えてみます。
11	宗教と倫理	総理大臣の靖国神社参拝が問題になっています。それは憲法の政教分離の原則や、思想、信教の自由の問題を含んでいます。さらに外交的な面も持っています。この問題を我が国の習慣と多神教文化という観点から考えてみます。
12	企業の責任	現在、企業の社会的責任（CSR）が、しばしば問題にされます。これは他人事ではありません。卒業したら勤めるのは企業体です。自営の人も企業の活動をするのは本質的には同じです。公共の仕事につく場合でも、組織の利益と社会のあり方が矛盾することはしばしばあります。倫理というのは個人の規範だけでなく、会社やその他の組織体もその社会・経済活動のさいに、倫理的であることを求められるのはとうぜんです。 たとえば、環境問題についてのスタッフを置くことができない中小企業が、環境破壊的な事件を起こした場合、この企業は環境に配慮している大企業にくらべて、悪い企業なのか。 有害な恐れがある物質でも、法律の基準に触れなければ、排出することは許されるか。 この講義では、会社や公共団体も含めて、組織の運営と社会倫理の関係を考えます。食品偽装の問題も取り上げてみます。
13	論文練習	これまでの3回のテーマについて、小論文の練習をします。
14	命について	命が大切なものであるの言うまでもないのですが、例えば、原発事故の時、現場にいる係りの人たちは、放射線の危険を冒して、現場にとどまるべきか、安楽死は認めてもいいのではないかなど具体的な問題では、簡単に割り切れないことが数多くあります。今回は赤ちゃんポストの問題などを取り上げながら、命について考えてみます。
15	論文練習	論文の書き方、参考書の使い方などを、もういちど説明してから、本年度の講義全体をまとめて、これまでの回について、小論文の練習をします。

平成29年度

科目名	心理学的人間論		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択
担当教員	折笠 国康			
開講期	前期			
授業概要	本講義では、「人間」がどのような存在であるか心理学の知見をもとに概説する。「社会心理学」「発達心理学」「人格心理学」などの知見を踏まえ、人間についての心理学的な視点から人間を理解することを目標とする。 【履修カルテの評価項目】 ①「自己」に関する心理学的な基本概念をどの程度理解できたか。 ②認知や感情などの「心の発達」に関する心理学的な基本概念をどの程度理解できたか。 ③自己と他者のかかわりに関する事柄の心理学的な基本概念をどの程度理解できたか。			
達成目標	本講義では、「人間」がどのような存在であるか心理学の知見をもとに概説する。「社会心理学」「発達心理学」「人格心理学」などの知見を踏まえ、人間についての心理学的な視点から人間を理解することを目標とする。 【履修カルテの評価項目】 ①「自己」に関する心理学的な基本概念をどの程度理解できたか。 ②認知や感情などの「心の発達」に関する心理学的な基本概念をどの程度理解できたか。 ③自己と他者のかかわりに関する事柄の心理学的な基本概念をどの程度理解できたか。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 1年 家政学部 人間生活学科 福祉コース 1年 家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 家政学部 食物栄養学	成績評価 方法	内容の「60%」以上の理解で合格とするが、「80%程度」の理解を求める。理解度の評価は小レポート30%、定期試験70%で行う。	
教科書	特にしてはいししない。授業中に資料を配布することがある。			
参考書	必要に応じて紹介する。			
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。 専用のノートを準備すること。			
オフィスタイム	金曜日 2限 835 3限 835			
自学自習	関連図書などを利用して理解を深めること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション、心理学とは	この授業の目的と授業方針を理解する。心理学的な思考や考察が果たす役割を理解する。
2	人間の発達(1) ー発達心理学ー	人間の発達や成長に関して、心理的な知見や理論を学び理解する。
3	自己とは(1) 認知について	認知心理学の基礎を学び、自己に対する認識について理解する。
4	自己とは(2) 認知について	ピアジェの認知の発達に関する理論を学び理解する。
5	自己とは(3) 自我同一性	自我同一性を中心に心理学的な枠組みで自己とは何かを理解する。
6	自己とは(4) 自己概念	心理学的な構成概念としての自己概念の理論的枠組みを理解する。
7	自己とは(5) 自尊感情と自己評価	自尊感情や自己評価に関する心理学的知見を概観し理解する。
8	自己とは(6)	「本当の自分」に関して、心理学的知見から理解する。
9	自己とは(7) 自己受容	C. ロジャースの理論を用いて、自己受容について理解する。
10	自己とは(8) 防衛機制	A. フロイトによる防衛機制の概念を学び、自己についての理解を深める。
11	自己とは(9) 交流分析	自己についてエゴグラムを用いた交流分析によって理解する。
12	動機づけの理論	内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。
13	人間と社会(1) アドラー心理学	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。
14	人間と社会(2) アドラー心理学	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。
15	本講義のまとめ	本講義の振り返りを通して、心理学的な人間論を復習する。

科目名	生物学的人間論		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択
担当教員	関口 晋			
開講期	後期			
授業概要	<p>よりよく生きること、より充実した人生を送ることは、人にとって共通の目標です。でも、まず自分というのはどんな存在であるかがわからなければ、何がよく生きること、どんな人生が充実した人生かもわかりません。実際、学問というものも、その本質は自分がどんな存在であるかを知るための自己探究であり能力開発です。</p> <p>そうはいつても、学問なんて分野だけでもわけがわからないほどあるし、どこから手をつけてどこまでわかればいいのか、その見当をつけるのも容易ではないでしょう。そこで、手取り早く自分がどんな存在であるのかを知ろうと思ったら、どうしたらいいのでしょうか？すると、その答えの一つが、自分がどんな集団に属しているのか、自分がどんなものの仲間なのか、を知ることです。（自分は何が好きか、も別の答えです。）</p> <p>そして、私たちがどんな集団に属していて、どんなものの仲間かといえば、私たちは生物に属していて、他の生物の仲間です。生物の性質とは、自然によって生み出された性質であり、私たちにとっての本来とは何かを知る手がかりになります。この授業では、その手がかりを紹介します。</p>			
達成目標	授業で示される手がかりをもとに、自分がどんな存在であるかを知り、どうしたら人生がよりよくなるのか、人生がより充実するのにかについて着想を育む、それがこの授業の目標です。			
受講資格	なし	成績評価 方法	授業中における論述（小論文）の内容について点数化（100点満点）	
教科書	なし（授業ごとにプリントを配布）			
参考書	なし			
学生への要望	授業の内容には連続性があります。また、全授業を通じて全体的な概観を形成することも、目標の一つです。なので、なるべく欠席しないようにしてください。気になった点があれば、授業中でも授業外でも質問してください。			
オフィスタイム	放課後			
自学自習	授業内容のほとんどは、専門的な各学問分野の入り口となるものです。興味をもった学問分野については、それに関する書籍を読むなどすることで、知識・理解を深めてください。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	この講義について、男女 Part 1	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義全体について説明します。 ・私たちはみんな女か男です。人は女と男から成り立っています。女と男に別れていることは生物にとってどんな利点があるのでしょうか？異性へのアピールってどうしたらいいのでしょうか？ ・主要トピック： 無性生殖と有性生殖（減数分裂と染色体、メンデルの法則）、有性生殖の必要性（雌雄の形態が異なる例）、性淘汰
2	男女 Part 2	<ul style="list-style-type: none"> ・女と男はどう違うのでしょうか？どうして違うのでしょうか？ ・主要トピック： 女性の役割と男性の役割（多夫一妻制、一夫多妻制、一夫一妻制、女性と男性の心身の相異）、性ホルモン
3	老若 Part 1	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちはみんな生まれて育って年老いていきます。人の出産、新生児、乳幼児、思春期にはどんな特徴があるのでしょうか？ ・主要トピック： 妊娠と新生児（母体が胎児に与える影響、ヒトの形態と妊娠、胎児の発達）、乳幼児（刺激と発達）、思春期（ホルモンバランス）
4	老若 Part 2	<ul style="list-style-type: none"> ・人の成人、高齢期にはどんな特徴があるのでしょうか？私たちにみな寿命があります。寿命ってどう考えたらいいのでしょうか？ ・主要トピック： 成人（身体の調節機構、身体的老化、中高年になると罹りやすい病気）、更年期・高齢期の特徴、寿命（世界的傾向、文明と寿命、生物種ごとの傾向、テロメア、サーチュイン）
5	人種 Part 1	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんないろいろな人種の特徴を持っています。人種ってどうしてできたのでしょうか？そもそもヒトの起源はどこにあるのでしょうか？そもそもヒトは他の生物に比べてどこが特別なのでしょうか？ ・主要トピック： 人種差別、人種の起源、ヒトと他の動物との相違点、ヒトの起源（原人と旧人）、ヒトならではの性質
6	人種 Part 2	<ul style="list-style-type: none"> ・人種っておおまかにはどう考えたらいいのでしょうか？日本人にも人種の違いってあったのでしょうか？人種が違うと何が違うのでしょうか？人種が違うと考え方も違うのでしょうか？ ・主要トピック： 人種の4大区分、日本民族の構成、人種の特徴、民族とその行動原理
7	霊長類	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんな霊長類です。ヒトとサルってどれくらい違うのでしょうか？世界にはどんなサルがいるのでしょうか？ヒトはサルからどう進化したのでしょうか？人間らしいってどういうことでしょうか？ ・主要トピック： 食物連鎖、霊長類の特徴、代表的な霊長類、霊長類の分類、ヒトと他の霊長類との相違点、猿人、ヒトと他の霊長類との共通点
8	哺乳類 Part 1	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんな哺乳類です。哺乳類にはどうしているいろいろな種に分かれたのでしょうか？生物の進化に決まったパターンってあるのでしょうか？哺乳類に共通した特徴って何でしょうか？ ・主要トピック： 哺乳類の多様性、キツネサルの多様性、定行進化（収斂進化）、恒温動物の特性（ベルクマンの法則、アレンの法則）、胎生の特性、哺乳類の外見の特性
9	哺乳類 Part 2	<ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類の優れた点って何でしょうか？その優れた点は、動物種によってどのように活かされているのでしょうか？また、そこにひそむ宿命とは？ ・主要トピック： 哺乳類の子育て、ネオテニー（幼形成熟）、教育・学習とコミュニケーション、種の保存と自己保存、集団の中の序列
10	動物 Part 1	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんな動物です。動かないと生きていけません。どう動くべきかは、環境によっても異なります。どんな環境なら、どうしたらいいのでしょうか？ ・主要トピック： 独立栄養と従属栄養、環境と競争、リッチな環境とニッチな環境（赤の女王仮説、サバンナの肉食獣の例）、飛躍（ブレイクスルー）に必要なもの
11	動物 Part 2	<ul style="list-style-type: none"> ・環境は変化します。環境の変化にはどう対応したらいいのでしょうか？私たちの身体や精神も、環境（外界）からの刺激を受けて発達するようにできています。また、環境によっては異なる種の動物であっても、協力しあう関係があります。 ・主要トピック： 環境と適応（滅亡例、適応例）、動物が持つ適応力、刺激と発達（インプリンティング）、共
12	細胞 Part 1	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんな集まった細胞でできています。細胞が集まることにどんなメリットがあるのでしょうか？細胞が集まったことで、私たちの身体は、どんな構造を持つことになったのでしょうか？ ・主要トピック： 自己保存と自己複製、原核細胞と真核細胞（細胞内共生）、多細胞生物と分化、ヒトの体のしくみと組織間の連携

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	細胞 Part 2	<p>・細胞はいつでも変化にさらされています。私たちの細胞は、制御がきかなくなってしまう危険性をかかえています。どうしてそんな危険性があるのでしょうか？制御がきかなくなってしまった細胞ができればどうなるのでしょうか？また、細胞に生じる変化は、生物自体をも変化させる原因にもなっています。</p> <p>・主要トピック： ガンに関する状況、ガンの予防、ガン細胞発生のしくみ、白血球のチーム活動、免疫の活性化</p>
14	遺伝子 Part 1	<p>・私たちは、遺伝子の情報に従ってつくられています。生命が途絶えず続いていくということは、遺伝子が途絶えず残されていくということです。遺伝子を残していくために、生物はどのような行動をとるのでしょうか？私たちは、みな遺伝子を残すための本能を持っていますが、今の社会ではどのような行動をとればいいのでしょうか？</p> <p>・主要トピック： 利己的遺伝子論、囚人のジレンマ、行動論に関する例</p>
15	遺伝子 Part 2	<p>・遺伝子は、ある生物種から別の生物種に渡されることがあります。遺伝子は人工的に操作されることもあります。一方で、地球の生命は多くの生物が存在することで保たれています。そう考えると、生命体とはいったいなんのでしょうか？遺伝子に関する変化は、私たちの住む世界をどのように変えていくのでしょうか？</p> <p>・主要トピック： 遺伝子の変異（個体差、SNPs、遺伝子診断、テーラーメイド医療）、水平伝播（ウイルス、プラスミド、トランスポゾン、抗生剤の歴史、ガイア生命圏）、遺伝子操作（遺伝子組み換え植物、遺伝子組み換え動物、デザイナー・ベビー）</p>

科目名	生活学的政治論		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択
担当教員	影山 彌			
開講期	前期			
授業概要	今日、わが国の政治は、社会の急激な進展によって生じた、次のような課題に対する政策的対応が求められている。生活優先、高齢化、情報化、国際化、自然環境保全、などである。そこで、本講義では、現代政治を理解するために必要なポイントについて学ぶとともに、最近、政治の中心に登場してきた「生活」をめぐるわが国の生活政策について検討する。			
達成目標	政治を理解するための基本的な枠組みを理解し、生活の全領域に対して政治がもつ深い関わりを理解できること。			
受講資格	人間生活学科（生活総合コース・福祉コース・建築デザインコース）・食物栄養学科	成績評価 方法	受講態度（20%）、テスト結果（80%）	
教科書	特になし。 毎時間授業内容のレジュメを配布する。			
参考書	前田繁一編著『現代と政治学』法律文化社			
学生への要望	授業目標を毎回確認すること。			
オフィスタイム	金曜日を除く昼休み（12:00～12:50） 創学館4階No.2研究室			
自学自習	予習：当日の内容を配付資料で確認しておくこと（1時間） 復習：授業を踏まえて、レジュメを使ってノートまとめをする（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	政治化の時代	今日、政治が生活のあらゆる面に深くかかわっていることを事例をとおして理解する。同時に、その結果、生活の管理化が進行していることにも注目する。
2	政治的無関心の問題	政治化の時代でありながら、広く存在している政治的無関心について、H. D. ラスウェルの諸説をとおして考える。
3	政治とは何か	研究者の諸説をとおして、政治は権力、言い換えれば、決定作成にかかわる現象であることを理解する。
4	政治と決定作成	政治の中心である決定作成が、国民に対する諸価値の権威的配分を意味する、政策や法律の作成であることを理解する。
5	立法過程（1）	決定の中心である法律の作成が、個人、圧力団体、政党とどのようにかわりながらなされるかをみる。
6	立法過程（2）	わが国の場合、法律が、立法過程の第2段階である国会審議において、どのような過程をへて成立するかを、委員会制度などを軸に学ぶ。
7	統治過程	法律の執行過程としての行政と司法の現状について、わが国の場合を例としてみることにする。
8	行政の優位	立法と司法に対する行政の優位について、事例をとおしてその現状と背景をとらえ、L. ギューリックの現代行政作用論についてもみる。
9	政治と権力	政治学の中心テーマでありつづける権力について、人間と権力の関係、権力という力の性質、権力の実体的あるいは関係的概念などを理解する。
10	権力構造	権力を誰がどのような形で所有しているか、この政治学の伝統テーマについて、研究者の所説に依って日本とアメリカについてみる。
11	権力の正当性の根拠	「権力が正当である」と承認する場合の、その根拠を問う、という政治学の伝統的テーマについて、M. ウェーバーの所説を端緒として考え、「生活優先」が有効な回答の一つであることを考える。
12	生活と政策（1）	国民の食生活に関わるわが国の農業政策について、低下しつづける食糧自給率、単作経営などに焦点をあてながら、その近代化路線を検討する。
13	生活と政策（2）	今日、家庭や地域で福祉を考える「生活福祉」の観念が強調されているが、この観点から、わが国における老人の在宅福祉対策の現状と問題点を考える。
14	生活と政策（3）	今日、家庭や地域で福祉を考える「生活福祉」の観念が強調されているが、この観点から、わが国における老人の在宅福祉対策の現状と問題点を考える。
15	総まとめ	総まとめを行い総合評価を行う。

平成29年度

科目名	生活学的法律論	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木 康元		
開講期	後期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける [授業全体の内容の理解] 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう [授業終了時の達成課題(到達目標)] 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること		
達成目標	[授業の目的・ねらい] 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける [授業全体の内容の理解] 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう [授業終了時の達成課題(到達目標)] 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること		
受講資格	家政学部 1年	成績評価 方法	ペーパー試験と出席の程度を考慮する
教科書	その都度指定する		
参考書	その都度指定する		
学生への要望	法律一般につき興味をもって欲しい		
オフィスタイム	授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	家族法とは	民法における家族法的位置づけと家族の意味
2	婚姻(1)	婚姻の意味と婚約等
3	婚姻(2)	婚姻の効力→婚姻をすると、夫婦はどのような義務を負うのか
4	離婚(1)	離婚の意味と実態等について
5	離婚(2)	離婚の方法と実務から見た問題点について
6	内縁	内縁の意味とその法的意味
7	親子(1)	親子の種別(実子・養子)と法的効果について
8	親子(2)	親権の意味と内容について
9	扶養	法律上の扶養義務者と現代的変遷について
10	相続の基礎	相続の意味と現代的特色
11	相続人	誰が相続人になるのか、相続人に相続させたくない場合は
12	相続の効力(1)	遺産承継について
13	相続の効力(2)	相続分と遺産分割について
14	遺言	遺言の意義・方式等
15	成年後見	成年後見制度について

平成29年度

科目名	生活学的社会論		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家 政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	私達は社会の中で生きており、生活と社会は切り離して考えることはできない。 本授業では、私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目的としている。 まず「社会」という概念について学習し、社会の構造、状態、課題について理解を深めるため、少子高齢化、雇用問題、経済格差、グローバル化等、ニュースや新聞で取り上げられる事象を通じて解説する。			
達成目標	私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目的とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 1年生 家政学部 食物栄養学科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点 (15点×2回) ②レポート70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	浅野智彦編著「社会学のことが面白いほどわかる本」、中経出版 他			
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる社会の問題について関心を持つようにすること。			
オフィスタイム	月曜8:30~14:20、金曜12:50~17:05 食品衛生学・経営管理学研究室			
自学自習	事前学習：事前に渡したプリントを見て内容を理解する(1時間)。 事後学習：プリント・ノートを見直して内容の理解を深める(1時間)。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明する。 『社会』とは何か、今の日本『社会』はどのような状態にあるか、その一例として少子高齢化社会について学習する。
2	少子高齢化社会と日本と世界①	少子高齢化社会を計る様々な指標について学習し、日本の人口構造と高齢化について概観する。
3	少子高齢化社会と日本と世界②	少子高齢化社会を計る様々な指標について学習し、世界各国の人口構造と高齢化について概観する。
4	社会と仕事・家族①	家族とその役割について学習する。 家庭において起こる問題—DVと児童虐待について学習する。
5	社会と仕事・家族②	フリーターとニート、日本的雇用慣行について学習する。
6	社会と仕事・家族③	正規雇用と非正規雇用について学習する。
7	社会と文化①	癒しと宗教について学習する。
8	社会と文化②	癒しと宗教、社会学から見た自殺問題について学習・考察する。 小テスト(1回目予定)
9	社会と国家①	社会学から見た国家(ルールと権力)、平等な社会と格差について学習する。
10	社会と国家②	厚生労働省とその取り組み(1)年金制度、社会保障制度、介護保険制度について学習する。
11	社会と国家③	厚生労働省とその取り組み(2)「健康日本21」「健やか親子21」等について学習する。
12	社会と国家④	「地域保健法」と保健所の役割、「学校保健安全法」について学習する。
13	社会と国家⑤	医療保険制度とその仕組みについて学習する。
14	社会と世界情勢	グローバル化とグローバル社会の問題点及びWHO(世界保健機関)とその取り組みについて学習する。
15	まとめ	これまでの学習内容の確認と小テストの内容について復習する。 小テスト(2回目)

平成29年度

科目名	生活学的経済論		対象 単位数 必選
担当教員	長谷川 貴弘		
開講期	前期		
授業概要	本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・バブル経済・労働問題・消費・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。		
達成目標	経済的事象を経済学的視点で見る目を養うとともに、公務員試験の経済学の問題にも対応できる力を養うことを到達目標とする。		
受講資格	家政学部 人間生活学科 1年生 家政学部 食物栄養学科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点 (15点×2回) ②期末試験70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	伊藤元重「はじめての経済学(上)(下)」日経文庫、他必要に応じて授業の中で紹介する。		
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。		
オフィスタイム	月曜8:30~14:20、金曜14:30~17:05 食品衛生学・経営管理研究室		
自学自習	事前学習：事前に渡したプリントを見て内容を理解する(1時間)。 事後学習：プリント・ノートを見直して内容の理解を深める(1時間)。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。 経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学習する。
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学習する。
3	経済学とは何か③	経済学をめぐって行われてきた政策論争(自由貿易vs保護貿易、大きな政府vs小さな政府)について学習することを通じて経済学への理解を深める。
4	マクロ経済学の基本と日本経済①	マクロ経済学(Macro Economics)が分析の対象とするGDP(国内総生産)の計算方法とその意味する点について学習する。
5	マクロ経済学の基本と日本経済②	日本と世界のGDPのデータを通じて、それが意味するものについて学習する。
6	マクロ経済学の基本と日本経済③	GDPを分解し、その中身について解説し、景気の拡大と後退のサイクルにおいて、GDPにどのような変化が起こるのかについて学習する。
7	マクロ経済学の基本と日本経済④	公務員試験のマクロ経済学関連の問題の解説を通じて、マクロ経済学の理論への理解を深める。 小テスト(1回目予定)
8	ミクロ経済学の基本-需要・供給曲線の理解-①	ミクロ経済学(Micro Economics)の定義と需要供給曲線について学習する。
9	ミクロ経済学の基本-需要・供給曲線の理解-②	需給バランスが崩れた場合、需要・供給曲線はどのように動くかについて学習する。また「市場の失敗」という概念について解説する。
10	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査①	世界の家計研究の歴史について学習する。
11	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査②	日本の家計研究の歴史について学習する。
12	生活と経済-エンゲルの法則と家計調査③	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学習する。
13	金融システムと経済①	「貨幣」と「金利」はどのような性質を持ち、いかなる役割を果たすかについて学習する。
14	金融システムと経済②	株式市場とバブル経済の発生とその崩壊過程について学習する。
15	まとめ	これまでの学習内容を確認する。 小テスト(2回目)

平成29年度

科目名	日本国憲法		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザイン コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/ 家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木 康元			
開講期	前期			
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。			
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。			
受講資格	家政学部 1年生	成績評価 方法	ペーパー試験と出席状況	
教科書	日本一わかりやすい憲法入門 中経出版			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。			
オフィスタイム	金曜日 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について□
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特徴、日本国憲法の歴史□
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について□
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について□
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について□
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権□
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下での平等の意義□
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える□
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について□
10	基本的人権⑦	経済的自由権□
11	基本的人権⑧	財産権□
12	基本的人権⑨	その他の人権について□
13	統治機構①	国会□
14	統治機構②	内閣□
15	統治機構③	裁判所□

平成29年度

科目名	生活生物学		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	源川 博久			
開講期	前期			
授業概要	生活生物学では「生物(生命)とは何か」を理解するために、主に「生物の分類」「細胞生理」「エネルギー代謝」「遺伝」について学ぶ。また、これらを理解する上では化学的な知識も必要となるため、生化学の基礎についても取上げる。			
達成目標	生活生物学は共通基礎科目として開講されるため、高校では生物や化学といった理系科目を選択しなかった人が、生理学、基礎栄養学、生化学などの専門基礎科目を理解できるように、理系科目の基礎を生物学的観点より理解することを目標とする。			
受講資格	特になし。	成績評価 方法	定期試験の結果(100%)で評価する。	
教科書	資料(パワーポイント)をWLRよりdownloadする。			
参考書	ホートン生化学 第4版、鈴木紘一ら訳、東京化学同人 視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録、鈴木孝仁監修、数研出版			
学生への要望	生活生物学と関係の深い科目と関連付けをして学習することが望ましい。また、予習・復習をして理解度を高めることが重要です。そのため、わからないことは生活生物学に関わらず質問すること。			
オフィスタイム	主に水曜日 14:30-16:00 栄養化学研究室			
自学自習	授業該当部分の資料(パワーポイント)で内容を確認し、準備すること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、受講上の注意点、教科書、評価方法などについて理解する。また、生活生物学で取りあげる授業内容について説明する。
2	生命の起源	地球における生命の起源(主な仮説)について確認する。
3	生化学の基礎Ⅰ	生物の生命活動を理解するために、生物を構成する成分ならびに糖質の基礎を確認する。
4	生化学の基礎Ⅱ	生物の生命活動を理解するために、タンパク質の基礎を確認する。
5	生化学の基礎Ⅲ	生物の生命活動を理解するために、脂質の基礎を確認する。
6	生化学の基礎Ⅳ	生物の生命活動を理解するために、核酸と水の基礎を確認する。
7	生物の分類	ウイルスと生物の比較、生物の分類を学ぶことで、生物の特徴を確認する。
8	原核生物と真核生物	原核生物の特徴を真核生物との相違点から確認する。また、真核生物については単細胞生物と多細胞生物に分けて確認する。
9	細胞の構成	細胞小器官や細胞膜の機能を学ぶことで細胞機能を理解する。
10	エネルギー代謝Ⅰ	代謝とエネルギー(ATP)の概念を学び、エネルギー代謝の流れを解説する。
11	エネルギー代謝Ⅱ	生物に共通する解糖系と好気呼吸について生化学的に解説する。
12	エネルギー代謝Ⅲ	生物に重要なその他の代謝系について生化学的に解説する。
13	遺伝Ⅰ	セントラルドグマのうちDNAの半保存的複製について学び、遺伝の基礎を理解する。
14	遺伝Ⅱ	セントラルドグマのうちタンパク質合成について学び、遺伝の基礎を理解する。
15	まとめと試験	これまでの授業のポイントをまとめ、試験にて理解度を確認する。

平成29年度

科目名	生活化学		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家 政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	坂野 史明			
開講期	前期			
授業概要	化学は栄養学、被服学、材料学などを学ぶにあたって土台となる学問であり、化学的な考え方を身に着けることでこれらの理解が進みます。 この授業では、まず高校化学の復習を通して化学の基本的な原理、原則を学びます。 さらに、有機化合物の構造や反応の基本を身につけることを目標とします。			
達成目標	化学の基本的な原理、原則を理解する。 有機化学の考え方の基本を身につける。			
受講資格	なし	成績評価 方法	小テスト (50%) および課題 (50%) の総合評価	
教科書	なし			
参考書	基礎からのやさしい化学 (田島眞 編著、建帛社)、コ・メディカル化学 (齊藤勝裕他 著、裳華房)			
学生への要望	よく理解できないところは、参考書等を用いて積極的に復習してください。			
オフィスタイム	水曜日のI限およびII限、その他適宜対応します。 No.1栄養学研究室			
自学自習	事前学習：当日の内容を高校の化学の教科書や参考書等で確認しておくこと (1時間) 事後学習：ノートのまとめと復習 (1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	物質と原子	物質の構成成分、原子の構造、原子核と同位体、原子の電子構造、周期表
2	化学結合と分子 (1)	イオン結合、共有結合
3	化学結合と分子 (2)	配位結合、金属結合、水素結合、ファンデルワールスカ
4	物質の量と状態 (1)	原子量・分子量・モル、濃度
5	物質の量と状態 (2)	物質の状態変化、気体の法則
6	溶液の化学 (1)	溶解のしくみ、溶解度
7	溶液の化学 (2)	沸点上昇・凝固点降下、浸透圧
8	化学反応式	化学反応式の書き方
9	酸と塩基 (1)	酸・塩基の定義、酸・塩基の価数と強弱、中和
10	酸と塩基 (2)	水素イオン濃度とpH、緩衝液
11	酸化・還元反応	酸化・還元の定義、酸化数、酸化剤と還元剤
12	有機化合物の種類と構造	構造式の表し方、炭化水素、置換基
13	異性体	構造異性体、立体異性体
14	有機化学反応	求電子反応と求核反応、置換反応、脱離反応、付加反応
15	まとめ	全体のまとめと復習

平成29年度

科目名	生活化学		
担当教員	坂野 史明		
開講期	前期		
対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択		
授業概要	化学は栄養学を学ぶにあたって土台となる学問であり、化学的な考え方を身につけることで栄養学の理解が進みます。この授業では、まず高校化学の復習を通して化学の基本的な原理、原則を学びます。さらに、栄養素の構造や反応を理解する上で必要となる有機化学の基本的な考え方を身につけることを目標とします。		
達成目標	化学の基本的な原理、原則を理解する。 有機化学の考え方の基本を身につける。		
受講資格	家政学部 食物栄養学科 必修	成績評価 方法	小テストおよび課題（50%）、期末試験（50%）の総合評価
教科書	なし		
参考書	基礎からのやさしい化学（田島眞 編著、建帛社）、コ・メディカル化学（齊藤勝裕他 著、裳華房）		
学生への要望	よく理解できないところは、参考書等を用いて積極的に復習してください。		
オフィスタイム	水曜日のI限およびII限、その他適宜対応します。 No.1栄養学研究室		
自学自習	事前学習：当日の内容を高校の化学の教科書や参考書等で確認しておくこと（1時間） 事後学習：ノートのまとめと復習（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	物質と原子	物質の構成成分、原子の構造、原子核と同位体、原子の電子構造、周期表
2	化学結合と分子（1）	イオン結合、共有結合
3	化学結合と分子（2）	配位結合、金属結合、水素結合、ファンデルワールスカ
4	物質の量と状態（1）	原子量・分子量・モル、濃度
5	物質の量と状態（2）	物質の状態変化、気体の法則
6	溶液の化学（1）	溶解のしくみ、溶解度
7	溶液の化学（2）	沸点上昇・凝固点降下、浸透圧
8	化学反応式	化学反応式の書き方
9	酸と塩基（1）	酸・塩基の定義、酸・塩基の価数と強弱、中和
10	酸と塩基（2）	水素イオン濃度とpH、緩衝液
11	酸化・還元反応	酸化・還元の定義、酸化数、酸化剤と還元剤
12	有機化合物の種類と構造	構造式の表し方、炭化水素、置換基
13	異性体	構造異性体、立体異性体
14	有機化学反応	求電子反応と求核反応、置換反応、脱離反応、付加反応
15	まとめ	全体のまとめと復習

科目名	生活物理学	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	後期		
授業概要	生活に関わる現象の物理的な理解を目的とし、様々な現象の状態・変化を記述する物理学を学ぶ。本講義では日常生活で見られる現象に対する物理学的な見方を学ぶ。またエネルギー・エントロピーなど、現代社会における重要な概念を学び、社会生活を送る上で適切な判断ができるよう基礎知識を習得する。		
達成目標	生活に係わる現象の物理学的理解のために本講義では、(1) 基礎的な用語を理解していること、(2) 基本的な物理量の定量評価ができること、(3) 日常現象の物理的な説明ができること、を目標とする。		
受講資格	なし。	成績評価 方法	課題(理解度の確認) 2回・理解度確認ペーパーの提出による。配点割合は課題が各 40%、理解度確認ペーパーの提出を 20% とする。なお課題は得点分布などを加味し、平均点などの調整を行うことがある。課題実施時の持ち込みは、自筆記入による A4 用紙 1 枚 (表裏記入可) のみに限る。成績評価の観点から、1) 基礎的な用語の理解、2) 基本的な物理量の定量評価、3) 日常現象の物理的な説明 ができることである。
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	・横田 俊昭, ぶつり学, 共立出版株式会社 (1993) ・数研編集部 編, 物理図録, 数研出版 (平成 18 年) ・志村史夫, いやでも物理が面白くなる, 講談社 (2001)		
学生への要望	基本的な数式の扱いに慣れておくこと。また内容が多岐に渡るため、参考書などを利用し理解を深めよう努めること。		
オフィスタイム	月曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 火曜日 12:50-14:20, No.1 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		
自学自習	事前学習: 学習する内容に現れる未知の単語等について調べる (20分) 事後学習: 返却された確認ペーパーのコメントを確認すること。また、内容の確認・整理を行うこと (60分)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	授業の目標・内容・成績評価の方法を提示する。また本講義を受ける上で前提とする数学のレベルを提示し、次週以降の準備として比率・指数・接頭辞・比例と反比例に関する復習を行う。
2	スカラーとベクトル	物理学で必要となるスカラーとベクトルの概念、演算法則、具体例を学ぶ。物理学で重要な量に位置や速度があるが、これらはベクトル量であることを理解し、速度が(ベクトルとしての)位置の変化量に関係することを学ぶ。
3	ニュートンの3法則(慣性の法則・作用反作用の法則)	運動方程式に現れる量は加速度であるため、まず加速度とはどのように定義される量か、位置と速度の関係を参照することで理解する。また運動を理解する上で重要なニュートンの3法則を学ぶ。ここでは慣性の法則と作用・反作用の法則について学ぶ。
4	ニュートンの3法則(運動方程式)	ニュートンの3法則の一つである運動法則 k について学ぶ。概念を理解するため質量が一定の場合に成立する運動方程式を導入する。次に運動量の概念を導入し、質量が変化する場合にも対応できる運動方程式(ニュートンの運動方程式)を導入する。さらに具体例により運動量の変化と力の関係を理解する。また導入された運動量に対する保存則(運動量保存則)が成立することを示し、具体例を通して運動量保存則の意味を理解する。
5	角運動量	角運動量とはなにかを定義し、角運動量が保存則(角運動量保存則)していることを理解する。角運動量保存則により、スケートのスピンの理解ができることを示す。また角運動量を変化させる力であるモーメントあるいはトルクを導入し、道具や機器とモーメントの関係を理解する。
6	仕事とエネルギー	仕事の概念を導入する。また単位時間あたりの仕事を意味する仕事率を定義する。これらの仕事の概念からエネルギーの概念を導出する。過程によらずエネルギーは保存すること(エネルギー保存則)を示し、具体的な例として位置エネルギー(水力発電などが該当)や運動エネルギーを学ぶ。また具体的な例によってエネルギーの量がどの程度であるのか概算する。
7	圧力	日常では力の概念を用いるより、力を平均化した圧力を用いる方が有効な場合がある。ここでは圧力を定義し、体重による圧力や大気圧の概算を行い、日常の圧力がどの程度であるのかの感覚を掴む。また圧力に起因する現象や圧力を利用した装置などについても学ぶ。
8	物質の三態	熱力学を理解する上で有用な気体の性質について学ぶ。理想気体の法則であるボイル・シャルルの法則を学び、状態方程式の概念を掴むこととする。物質の三態(気体・液体・固体)を理解し、温度が一定であっても圧力により様々な状態を取ることを学ぶ。またこれらの相の遷移(相転移)の概念を学ぶ。
9	熱力学の法則	熱を扱う学問を熱力学と呼ぶ。熱とは何かを理解し、熱力学の基本法則の一つである熱力学第一法則(熱を含むエネルギー保存則)を学び、エネルギーとの関係で比熱を理解する。また熱機関の考えを通じ、熱力学の基本法則の一つである熱力学第二法則(エントロピー増大の法則)を学ぶ。エントロピーの概念の概略を掴み、自然の変化の方向がエントロピーによって定まっていることや環境問題とエントロピーの関係を理解する。
10	課題1	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する
11	波	波の基本的な特徴や性質について学ぶ。波の物理的特徴である振幅・波速・波長およびこれらと関係する振動数(周波数)について理解する。さらに縦波と横波の差異や波の性質として重要な、干渉(重ね合わせの原理)、回折、屈折、反射などについても学ぶ。
12	音波と知覚	音波は(空気とは限らない)物質の疎密波である。まず様々な物質中の音の速さや温度依存性を学ぶ。音波も波であるから、波の特徴である干渉・反射・屈折・回折という性質を有する。これらの特徴が音のどのような性質として現れるかについて学び、さらに日常でも確認できるドップラー効果について学ぶ。これらの物理刺激を人間がどのように捉えるかを法則としてまとめたウェーバ・フェヒナーの法則を学び、デシベルの考え方を理解する。また音の物理的性質と人間の感じる音の性質の違いについて触れる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	光	日常にありふれている光は、突き詰めると極めて難しい対象である。ここでは、まず光の波の側面に着目し、光は電磁波であり、横波であることを理解する。電磁波はその波長(あるいは周波数)によって特性が大きく異なることから、波長・周波数に対応する用途について学ぶ。さらに波の性質である回折・干渉・屈折・反射が光の性質としてどのように現れるか学ぶ。特に光では全反射と呼ばれる現象が見られることを理解し、これらの波の性質を実験を通して理解することとする。また光が横波であることから、光には偏光と呼ばれる光が存在する。偏光とはなにか、偏光板を用いて理解する。
14	光のスペクトル	波長あるいは周波数に対する光の強度分布を(光の)スペクトルと呼ぶ。スペクトルは光源毎に異なっているため、スペクトルからどのような光源から放たれた光であるか、光源の移動速度はどの程度であるかといった事について判断できる。ここではスペクトルの概念を理解する。理解を深めるために分光器を作成し、太陽光や蛍光灯の光などのスペクトルを確認する。
15	課題2	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。

科目名	国語表現法		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 4単位 必修/家政学部 食物栄養学科 1年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 4単位 選択
担当教員	真船 均			
開講期	前期			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①英文学の文章（和訳）の読解 ②小論文の書き方の演習</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>シェイクスピア作『ハムレット』とジェイン・オースティン作『エマ』の文章（共に和訳）を読解し、小論文作成の演習を重ね、文章技術を習得する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>授業の目的・ねらいを達成し、80点以上の評価を得られるようにする。</p>			
達成目標	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①英文学の文章（和訳）の読解 ②小論文の書き方の演習</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>シェイクスピア作『ハムレット』とジェイン・オースティン作『エマ』の文章（共に和訳）を読解し、小論文作成の演習を重ね、文章技術を習得する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>授業の目的・ねらいを達成し、80点以上の評価を得られるようにする。</p>			
受講資格	人間生活学科、食物栄養学科1年	成績評価方法	①課題60点（20点×3回） ②期末試験40点	
教科書	オースティン『エマ』（上・下）工藤政司訳、シェイクスピア『ハムレット』野島秀勝訳 ともに岩波文庫			
参考書	特になし			
学生への要望	授業へは積極的にに関わり、予習復習に励んで下さい。			
オフィスタイム	月曜2限と水曜6限の教務部非常勤控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業説明、小論文構成説明	授業の進め方と評価方法を説明する。小論文構成（序論・本論・結論の三分法）を説明する。
2	TVドラマ鑑賞と小論文作成	TVドラマ『ながらえ』を鑑賞し、小論文を作成する。
3	小論文構成の解説	上記作品に関する小論文の例文を提示し、小論文の構成を解説する。
4	『エマ』読解 第1～第5章	「エマとハリエットの関係をめぐるミスター・ナイトリーとミセス・テイラーの対立」を読解する。
5	『エマ』読解 第6～第10章	「ハリエットをめぐるミスター・ナイトリーとエマの議論」を読解する。
6	『エマ』読解 第11～第15章	「エマに対するミスター・エルトンの態度」を読解する。
7	『エマ』読解 第16～第20章	「ミスター・エルトンに対するエマの反応」を読解する。
8	『エマ』読解 第21～第25章	「エマとミスター・ナイトリーのフランク・チャーチルに対する評価」を読解する。
9	『エマ』読解 第26～第30章	「ミス・フェアファックスをめぐるエマとミセス・ウェストンの議論」を読解する。
10	小論文作成①	『エマ』の前半を読んできて、各自が最も関心のあるテーマについて小論文を作成し提出する。
11	小論文検討①第31～35章	学生の作成した小論文を検討する。「ミスター・ナイトリーを気にするエマ、ミセス・エルトンという女性」を読解する。
12	小論文検討①第36～40章	「舞踏会でのエマ、そしてミスター・ナイトリーとハリエット」を読解する。
13	小論文検討①第41～45章	「ミス・ベイツを見下すエマをたしなめるミスター・ナイトリー」を読解する。
14	小論文検討①第46～50章	「ハリエットの気持を誤解するエマ、ミスター・ナイトリーの本心」を読解する。
15	小論文検討①第51～55章	「エマとミスター・ナイトリー、ハリエットとロバート・マーティン」を読解する。
16	小論文作成②	『エマ』の後半を読んで、各自が最も関心のある点について小論文を作成し提出する。
17	小論文検討②	学生の作成した小論文を検討する。
18	映画『エマ』鑑賞（上）	BBC映画『エマ』鑑賞を通して作品理解を深める。
19	映画『エマ』鑑賞（中）	BBCが原作に忠実に制作した映画を鑑賞し細部に注目する。
20	映画『エマ』鑑賞（下）	英国19世紀の時代背景を映像で確認する。
21	『ハムレット』読解 第一幕	「ハムレットと父の亡霊との対話」を読解する。
22	『ハムレット』読解 第二幕	「狂人を装うハムレットの孤独、ハムレットを訪ねる劇団」を読解する。
23	『ハムレット』読解 第三幕	「ハムレットと純真なオフィーリア、ハムレットと母である王妃ゲートルド」を読解する。
24	『ハムレット』読解 第四幕	「気が狂うオフィーリアの悲恋、王とレアティーズ」を読解する。
25	『ハムレット』読解 第五幕	「ハムレットの復讐と死」を読解する。
26	小論文作成③	『ハムレット』を読んで、各自が最も関心のある点について小論文を作成し提出する。
27	小論文検討③	学生の作成した小論文を検討する。
28	小論文検討④	学生の作成した小論文を再び検討する。
29	映画『ハムレット』鑑賞	名優ローレンス・オリビエ制作映画『ハムレット』鑑賞を通して作品の理解を深める。
30	学習の振り返り	学習全体を振り返り不足分を補い、到達目標が叶えられるようにする。

平成29年度

科目名	総合英語 I		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	J・ティルマント			
開講期	前期			
授業概要	A. Express personal information and preferences. B. Describe pastimes and opinions about them. C. Talk about your family and their characteristics. D. Take a comprehensive written examination.			
達成目標	1. The main objective is to improve all 4 English skills (reading, writing, listening and speaking) with a focus on English communication and listening. 2. Students will learn how to self-evaluate their coursework and then learn ways to improve their ability on homework, quizzes, reports, etc. 3. Another goal is to be able to express cultural information about Japan and other countries.			
受講資格	大1年 A・B家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択	成績評価 方法	1. Participation, Attitude (10%) 2. Classwork, Quizzes (30%) 3. Final Written Test (60%)	
教科書	"Impact Conversation 1" by Kristen Sullivan and Todd Beuckens. Publisher: Pearson and Longman.			
参考書	(none)			
学生への要望	1. Please attend all classes. 2. Always do classwork, homework and CD listening. 3. Study hard for the 3 quizzes and final test.			
オフィスタイム	Monday 1st Period (8:50 - 10:20) and by Appointment, Research Room			
自学自習	Advisable to partake in self-study and review at home. Self-study and review hours should be more than twice the classroom hours (e.g. 1 classroom hour = more than 2 self-study hours).			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Introduction and Guidance. Unit 1.	Guidance about the textbook, tests, quizzes, homework, attendance, etc. Unit 1 - Guess Where I'm From: Pages 8-9, 81, CD Tracks 2-8.
2	Unit 1 - Conversation Starters	Unit 1 - Guess Where I'm From: Getting background information from others. Watch and practice an Internet video about requesting background information. Pages 9-11, 81, CD 2-8.
3	Unit 1 - Personal Questions	Unit 1 - Asking Personal Questions: Who are you like? Asking personal questions to classmates. Watch an Internet video about meeting others for the first time. Pages 11-12, 81, CD 2-8.
4	Unit 2 - Comfy Seats	Unit 2 - Comfy Seats: Expressing preferences. Pages 13-16, 82, CD 9-15. Quiz No. 1.
5	Unit 2/3 - The Art Gallery	Unit 2 Review. Unit 3 - Pastimes: Describing your own pastimes. Watch and practice an Internet video about expressing entertainment preferences. Introduction to additional Internet resources. Pages 17-18, 83, CD 14-22.
6	Units 3/4 - My Quirky Family	Unit 3 Review. Unit 4 - My Quirky Family: Describing family members and personalities. Pages 19-23, 84, CD 21-26.
7	Unit 4 - Family Relationships	Unit 4 - Describing Family Relationships and Pastimes. Pages 23-24, 84, CD 23-29.
8	Units 4/5 - Scaredy Cat	Unit 4 Review. Unit 5 - Scaredy Cat: Expressing fears. Researching iconic artists. Pages 24-27, 85, CD 27-30. Quiz No. 2.
9	Unit 5 - Scaredy Cat	Unit 5 - A Board Game: Playing a game about scary things. Pages 27-28, 85, CD 30-36.

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	Unit 6 - The Commute	Unit 6 - Commutes: Discussing commutes to university. Watch and practice an Internet video about getting around town. Introduce more Internet resources. Pages 29-30, 86, CD 37-44.
11	Unit 6 - Expressing Complaints	Unit 6 - Dislikes: Expressing dislikes and complaints. Pages 31-32, 86, CD 37-44.
12	Units 1-6 Review	Comprehensive Review of Units 1-6. Complete grammar and conversational exercises to review all the previous units. Quiz No. 3.
13	Unit 7- A Close Shave	Unit 7 - A Close Shave: Talking about dangerous experiences. Pages 33-36, 87, CD 45-49.
14	Unit 8 - Excuses	Unit 8 - Excuses: Expressing healthy habits. Watch an Internet video about various countries and their foods. Pages 37-40, 88, CD 50-56.
15	Comprehensive Review for Final Examination	Conduct a comprehensive review for the final written examination. Pages 9-40, CD 2-56.

平成29年度

科目名	総合英語 I		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	ダニエル ホーナー			
開講期	前期			
授業概要	A. Express personal information and preferences. B. Describe pastimes and opinions about them. C. Talk about your family and their characteristics. D. Take a comprehensive written examination.			
達成目標	1. The main objective is to improve all 4 English skills (reading, writing, listening and speaking) with a focus on English communication and listening. 2. Students will learn how to self-evaluate their coursework and then learn ways to improve their ability on homework, quizzes, reports, etc. 3. Another goal is to be able to express cultural information about Japan and other countries.			
受講資格	大1年 A・B家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択	成績評価 方法	1. Participation, Attitude (10%) 2. Classwork, Quizzes (30%) 3. Final Written Test (60%)	
教科書	"Impact Conversation 1" by Kristen Sullivan and Todd Beuckens. Publisher: Pearson and Longman.			
参考書	(none)			
学生への要望	1. Please attend all classes. 2. Always do classwork, homework and CD listening. 3. Study hard for the 3 quizzes and final test.			
オフィスタイム	Monday 1st Period (8:50 - 10:20) and by Appointment, Research Room			
自学自習	Advisable to partake in self-study and review at home. Self-study and review hours should be more than twice the classroom hours (e.g. 1 classroom hour = more than 2 self-study hours).			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Introduction and Guidance. Unit 1.	Guidance about the textbook, tests, quizzes, homework, attendance, etc. Unit 1 - Guess Where I'm From: Pages 8-9, 81, CD Tracks 2-8.
2	Unit 1 - Conversation Starters	Unit 1 - Guess Where I'm From: Getting background information from others. Watch and practice an Internet video about requesting background information. Pages 9-11, 81, CD 2-8.
3	Unit 1 - Personal Questions	Unit 1 - Asking Personal Questions: Who are you like? Asking personal questions to classmates. Watch an Internet video about meeting others for the first time. Pages 11-12, 81, CD 2-8.
4	Unit 2 - Comfy Seats	Unit 2 - Comfy Seats: Expressing preferences. Pages 13-16, 82, CD 9-15. Quiz No. 1.
5	Unit 2/3 - The Art Gallery	Unit 2 Review. Unit 3 - Pastimes: Describing your own pastimes. Watch and practice an Internet video about expressing entertainment preferences. Introduction to additional Internet resources. Pages 17-18, 83, CD 14-22.
6	Units 3/4 - My Quirky Family	Unit 3 Review. Unit 4 - My Quirky Family: Describing family members and personalities. Pages 19-23, 84, CD 21-26.
7	Unit 4 - Family Relationships	Unit 4 - Describing Family Relationships and Pastimes. Pages 23-24, 84, CD 23-29.
8	Units 4/5 - Scaredy Cat	Unit 4 Review. Unit 5 - Scaredy Cat: Expressing fears. Researching iconic artists. Pages 24-27, 85, CD 27-30. Quiz No. 2.
9	Unit 5 - Scaredy Cat	Unit 5 - A Board Game: Playing a game about scary things. Pages 27-28, 85, CD 30-36.

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	Unit 6 - The Commute	Unit 6 - Commutes: Discussing commutes to university. Watch and practice an Internet video about getting around town. Introduce more Internet resources. Pages 29-30, 86, CD 37-44.
11	Unit 6 - Expressing Complaints	Unit 6 - Dislikes: Expressing dislikes and complaints. Pages 31-32, 86, CD 37-44.
12	Units 1-6 Review	Comprehensive Review of Units 1-6. Complete grammar and conversational exercises to review all the previous units. Quiz No. 3.
13	Unit 7- A Close Shave	Unit 7 - A Close Shave: Talking about dangerous experiences. Pages 33-36, 87, CD 45-49.
14	Unit 8 - Excuses	Unit 8 - Excuses: Expressing healthy habits. Watch an Internet video about various countries and their foods. Pages 37-40, 88, CD 50-56.
15	Comprehensive Review for Final Examination	Conduct a comprehensive review for the final written examination. Pages 9-40, CD 2-56.

平成29年度

科目名	総合英語 I		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	ダニエル ホーナー			
開講期	前期			
授業概要	A. Express personal information and preferences. B. Describe pastimes and opinions about them. C. Talk about your family and their characteristics. D. Take a comprehensive written examination.			
達成目標	1. The main objective is to improve all 4 English skills (reading, writing, listening and speaking) with a focus on English communication and listening. 2. Students will learn how to self-evaluate their coursework and then learn ways to improve their ability on homework, quizzes, reports, etc. 3. Another goal is to be able to express cultural information about Japan and other countries.			
受講資格	大1年 A・B家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択	成績評価 方法	1. Participation, Attitude (10%) 2. Classwork, Quizzes (30%) 3. Final Written Test (60%)	
教科書	"Impact Conversation 1" by Kristen Sullivan and Todd Beuckens. Publisher: Pearson and Longman.			
参考書	(none)			
学生への要望	1. Please attend all classes. 2. Always do classwork, homework and CD listening. 3. Study hard for the 3 quizzes and final test.			
オフィスタイム	Monday 1st Period (8:50 - 10:20) and by Appointment, Research Room			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Introduction and Guidance. Unit 1.	Guidance about the textbook, tests, quizzes, homework, attendance, etc. Unit 1 - Guess Where I'm From: Pages 8-9, 81, CD Tracks 2-8.
2	Unit 1 - Conversation Starters	Unit 1 - Guess Where I'm From: Getting background information from others. Watch and practice an Internet video about requesting background information. Pages 9-11, 81, CD 2-8.
3	Unit 1 - Personal Questions	Unit 1 - Asking Personal Questions: Who are you like? Asking personal questions to classmates. Watch an Internet video about meeting others for the first time. Pages 11-12, 81, CD 2-8.
4	Unit 2 - Comfy Seats	Unit 2 - Comfy Seats: Expressing preferences. Pages 13-16, 82, CD 9-15. Quiz No. 1.
5	Unit 2/3 - The Art Gallery	Unit 2 Review. Unit 3 - Pastimes: Describing your own pastimes. Watch and practice an Internet video about expressing entertainment preferences. Introduction to additional Internet resources. Pages 17-18, 83, CD 14-22.
6	Units 3/4 - My Quirky Family	Unit 3 Review. Unit 4 - My Quirky Family: Describing family members and personalities. Pages 19-23, 84, CD 21-26.
7	Unit 4 - Family Relationships	Unit 4 - Describing Family Relationships and Pastimes. Pages 23-24, 84, CD 23-29.
8	Units 4/5 - Scaredy Cat	Unit 4 Review. Unit 5 - Scaredy Cat: Expressing fears. Researching iconic artists. Pages 24-27, 85, CD 27-30. Quiz No. 2.
9	Unit 5 - Scaredy Cat	Unit 5 - A Board Game: Playing a game about scary things. Pages 27-28, 85, CD 30-36.
10	Unit 6 - The Commute	Unit 6 - Commutes: Discussing commutes to university. Watch and practice an Internet video about getting around town. Introduce more Internet resources. Pages 29-30, 86, CD 37-44.

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	Unit 6 - Expressing Complaints	Unit 6 - Dislikes: Expressing dislikes and complaints. Pages 31-32, 86, CD 37-44.
12	Units 1-6 Review	Comprehensive Review of Units 1-6. Complete grammar and conversational exercises to review all the previous units. Quiz No. 3.
13	Unit 7- A Close Shave	Unit 7 - A Close Shave: Talking about dangerous experiences. Pages 33-36, 87, CD 45-49.
14	Unit 8 - Excuses	Unit 8 - Excuses: Expressing healthy habits. Watch an Internet video about various countries and their foods. Pages 37-40, 88, CD 50-56.
15	Comprehensive Review for Final Examination	Conduct a comprehensive review for the final written examination. Pages 9-40, CD 2-56.

平成29年度

科目名	実用英語 I		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	ダニエル ホーナー			
開講期	後期			
授業概要	<p>A. Express personal information including pastimes and preferences. B. Recite conversations in English pertaining to everyday life. C. Perform dialogues with group members to demonstrate conversational proficiency. D. Learn about the foods and cultures of other countries.</p>			
達成目標	<p>1. The main objective is to improve all English skills with a focus on everyday, practical English. 2. Students will learn how to self-evaluate their coursework and ways to improve their proficiency on English dialogues and performances. 3. Another goal is to be able to express cultural information about Japan and other countries.</p>			
受講資格	大1年	成績評価 方法	<p>1. Participation, Attitude (10%) 2. Classwork, Quizzes (30%) 3. Final Written Test (60%)</p>	
教科書	(None)			
参考書	Prints made by instructor, Daniel O. Horner			
学生への要望	<p>1. Please attend all classes. 2. Always do classwork, homework and listening. 3. Study hard for the 3 quizzes and final test.</p>			
オフィスタイム	Thursday, 5th Period (16:10 - 17:40), and by Appointment, Research Room			
自学自習	Partake in self-study and review at home. Self-study and review hours should be more than twice the classroom hours (e.g. 1 classroom hour = more than 2 review and self-study hours).			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Quest No. 1	Lesson 1 - Personal Interests: Students will express personal interests and hobbies to classmates. An interview game will allow them to know other class members.
2	Quest No. 2	Lesson 2 - Family Descriptions and Personalities: An extension of lesson 1. Students will describe physical characteristics and personalities of family members and friends.
3	Quest No. 3	Lesson 3 - Abilities: Students develop their own conversations to learn and discuss personal abilities. Students will be encouraged to demonstrate those abilities during presentations of the conversations.
4	Quest No. 4	Lesson 4 - Daily Routines: Phrases are introduced that allow students to talk fluently about their daily routines and routines on the weekends. Students will complete a journal entry about a "terrible day" they have had in the past. Students will present those journal entries in groups.
5	Quest No. 5	Lesson 5 - About Yesterday: Students will speak about the past and activities they have done. They will also become proficient at using the interrogative, e.g. "Did you go swimming ~?" and "Were you late for ~?" Take quiz No. 1.
6	Quest No. 6	Lesson 6 - The Body: Identifying parts of the body, aches and pains. Students will write and perform skits using props to demonstrate their knowledge of body parts, types of injuries, and everyday pains.
7	Quest No. 7	Lesson 7 - Travel and Tourism: Express destinations the students want to visit and places they have been to. In small groups, students discuss the advantages and disadvantages of places they have visited.
8	Quest No. 8	Lesson 8 - The United States: Students learn in-depth information about several states in the USA, including the states of Florida and Wisconsin. Information is given about famous places and locations, and then students write and express destinations in the states they want to visit.

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	Quest No. 9	Lesson 9 - Future Careers: A questionnaire will be given to ascertain which careers best suit each student. Students will then report on the results in small groups. Then in pairs, students will use alternate data to predict a partner's future pertaining to marriage, finances and success. Take quiz No. 2.
10	Quest No.10	Lesson 10 - Tomorrow and Beyond: Students listen to and record the morning, evening and afternoon plans of three different people. Then students choose two pictures from a variety of choices and express in groups what they will do and what they will not do this weekend.
11	Quest No.11	Lesson 11 - Clothes and Fashion: Identify clothing and current fashion trends. Students will first identify the names and origins of a variety of clothing. Then in groups of 3, they will discuss what is in fashion and what is out of fashion. Finally, students will demonstrate how they choose and buy clothing and accessories.
12	Quest No.12	Lesson 12 - Popular Music: Casual conversations about popular music. Students will continue to expand their use of English expressions by learning how to properly start conversations and continue them by, for example, talking about such subjects as music preferences. A video clip pertaining to this will be viewed. Students will be encouraged to share samples of music they recommend.
13	Quest No.13	Lesson 13 - Personal Spending Habits: Through an Internet video, students learn about and how to express ways they spend and handle money. Topics of "spending addictions" and "balancing a budget" will be addressed. Take quiz 3.
14	Quest No.14	Lesson 14 - Housing and Pets: Students will consider designs and locations of future apartments and houses. Advantages and disadvantages of various options will be discussed. Review for final examination.
15	Quest No.15	Lesson 15 - Nutrition and Healthy Lifestyles: Healthy and unhealthy lifestyles will be explored. Through small group discussions and the use of Venn diagrams, students will ascertain what the commonalities are in their lifestyles (a Venn diagram that shows all possible logical relations between a finite collection of different sets). Final review for the examination.

平成29年度

科目名	実用英語 I	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	安田 純子		
開講期	後期		
授業概要	英語は世界で広く使われ、国際コミュニケーションのためにもその必要度は増してきています。本講座では、日常生活における基礎的な英語の理解力を高め英語での表現力を総合的に習得することを目標とします。バランスのとれた英語力習得のために不可欠な文法・語法の着実な理解と英語を聞き話すための耳と口を鍛えます。		
達成目標	①平易な英語の文章（英検3級レベル程度）を読んでものおおよその意味を把握できる。 ②①レベルの英語を聞いておおよその意味を把握できる。 ③基本的な英文の構造や文法をある程度理解している。		
受講資格	受講資格 人間生活学科 1年・食物栄養学科 1年以上	成績評価 方法	成績評価方法 平常点（小テストを含む）40%、試験・レポート60%
教科書	教科書 Let's Read Aloud & Learn English [SEIBIDO]		
参考書	参考書 英和辞典はできるだけ新しく語彙数と用例の多いものをすすめます。		
学生への要望	学生への要望 Students are advised not to miss any class.		
オフィスタイム	オフィスタイム Monday 1:00pm -4:00pm and Tuesday/Friday 9:30am-12:00pm My Office (Sougakukan Room No.1)		
自学自習	予習：わからない単語を調べる。文法事項の確認。（1時間） 復習：音読と筆写（プリント）。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Class Introduction	・ Explanation (Contents, The meaning of learning of English, course purpose and exposed goals, evaluation details) ・ Contents (テキストの目次から)
2	Small Test①②	・ Small Test①②
3	Unit 1	・ Pleased to meet you. -出迎え 会話一人を紹介する表現 文法-be動詞 *WAME-UP (Vocabulary Preview, Grammar Point), LET'S LISTEN!, LET'S CHECK & READ ALOUD!, GRAMMAR, LRT'S READ, CHALLENGE YOURSELF!, LET'S READ ALOUD & WRITE!
4	Unit 2	・ DO you remember me? -ケイトとの出会い 会話一仕事を尋ねたり、説明したりする表現 文法-一般動詞の現在形
5	Unit 3	・ I spoke to Ms. Hayashi yesterday. -苦情対応 会話一謝罪をしたり、相手の意向を尋ねたりする表現 文法-一般動詞の過去形
6	Unit 4	・ Whendoes the meeting start?-会議の準備 会話一場所や時間を尋ねる表現 文法-疑問詞を使った疑問文
7	Unit 5	・ Can you meet me at the airport?-出張打ち合わせ 会話一依頼する際に使われる表現 文法-助動詞

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	Unit 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ Feel free to ask me anytime. -使用法説明 会話-使い方を説明する表現 文法-一文の種類と命令文
9	Unit 7	<ul style="list-style-type: none"> ・ I'm thinking about quitting my job. -仕事の悩み 会話-相談したり、励ましたりする表現 文法-進行形
10	Unit 8	<ul style="list-style-type: none"> ・ I'll give her your message. -電話応対 会話-聞き返したり、確認したりなど、電話対応でよく使われる表現 文法-未来形
11	Unit 9	<ul style="list-style-type: none"> ・ I haven't received the latest figures. -会議の準備 会話-状況を確認したり、作業を指示したりする表現 文法-現在完了形
12	Unit 10	<ul style="list-style-type: none"> ・ The cafeteria is closed today. -オフィス案内 会話-場所を聞いたり説明したりする表現、感情を表す表現 文法-受動態
13	Unit 11/ Exam Prep 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ We expect higher sales in China. -会議 会話-比較したり、詳細を尋ねたりする表現 文法-比較 ・ Pre session for the Exam planned Week 15 Review of each lesson (復習)
14	Unit 12/ Exam Prep 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ I'd like to check in. -チェックイン ・ Pre session for the Exam planned Week 15 Review of each lesson (復習)
15	Pre-examination / Explanation	<ul style="list-style-type: none"> ・ Pre-examination ・ Explanation

科目名	運動健康論	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤 浩明		
開講期	通年		
授業概要	生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性を理解し、生涯にわたり自分の健康や体力に配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技、講義を通じて学びます。 ①運動と健康の関連を理解し、健康の在り方について学びます。 ②スポーツの意義を理解し、人間力について学びます。 ③運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ④運動を通して、基礎体力の維持、向上する方法について学びます。		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける		
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 1年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 福祉コース 1年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 1年 2単位 選択 ※教職課程履修者は必修	成績評価 方法	平常点30点（取組姿勢） 試験・提出物70点（実技・レポート） ※本科目は実技を含むため、出席、積極的な取組みも重視します。
教科書	特になし（必要に応じて資料等を配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：勸日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメソッド：高橋書店」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）		
オフィスタイム	火・水・木の9:00～16:00まで創学館N04研究室 佐藤		
自学自習	【事前】急激な運動は怪我の恐れがあるので、ストレッチや軽くジョギングなどでウォーミングアップを20分すること。講義は当日の授業内容を参考書等で確認しておくこと（1時間） 【事後】運動後は怪我防止と疲労を残さないため、軽くジョギングした後にストレッチをして、クールダウンを20分すること。講義は授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明 ②服装、準備物の確認（注意事項含む） ③グループ分け
2	縄跳び①/からだづくりの運動	【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動 ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃
3	縄跳び②/からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃
4	縄跳び③/からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
5	フライングディスク③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
6	フライングディスク③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
7	フライングディスク③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
8	フライングディスク③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
9	フライングディスク③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
10	ソフトバレーボール③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
11	ソフトバレーボール③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
12	ソフトバレーボール③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	ソフトバレーボール③/からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃
14	ソフトバレーボール③/からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃
15	実技のまとめ	《まとめとして実技試験を行う》 ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②レクリエーションゲーム ③実技試験 ④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑤体育館清掃
16	第16回 オリピックについて	オリンピックの歴史と現状 オリビズム、オリンピック憲章について学び、スポーツの持つ魅力について学びます。
17	第17回 生活と健康について①	《健康とは何か》 健康について考える導入として、「健康の定義」をWHO（世界保健機関）の憲章をふまえ、様々な角度から学びます。
18	第18回 生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》 ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し、運動との関係について学びます。 ②運動・休養と健康について学びます。
19	第19回 生活と健康について③	《大学生の健康》 大学生の生活に潜む危険要因について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。
20	第20回 生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》 スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。
21	第21回 生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う ②観る ③支える ④調べるの視点から学びます。
22	第22回 生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》 大学生になり高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康に興味を持ち、運動やスポーツにどう関わることができるかについて学びます。
23	第23回 スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》 スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常生活や、普段の行動にも通じるものがあります。 ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。
24	第24回 スポーツから学ぶ②	《メンタルトレーニング》 常に結果が求められるスポーツ選手（アスリート）のメンタルトレーニング、ポジティブシンキング、行動基準について学びます。
25	第25回 スポーツから学ぶ③	《目標設定》 スポーツ選手（アスリート）の行動基準から自分の目標設定の方法について学びます。
26	第26回 健康増進のための身体運動について①	《体力とは》 ①体力の概念と体力要素（身体的要素 精神的要素）について学びます。 ②運動の原理原則について理解し、効果的な運動の方法について学びます。
27	第27回 健康増進のための身体運動について②	《エクササイズの方法について》 健康の保持増進やからだをつくるための方法（①有酸素運動 ②筋力トレーニング ③ストレッチ ④バランス等）や実施する際のポイントについて学びます。
28	第28回 コンディショニングについて	《からだの調子を良くする・怪我の予防・対処方法》 ①コンディショニングを崩す原因を理解し予防方法について学びます。 ②怪我の予防、応急処置の基本、熱中症対策について学びます。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	第29回 健康的な生活について①	≪ライフスタイルについて≫ 自分のライフスタイル（生活習慣・運動習慣）を客観的に理解し、健康的な生活を過ごすための方法について学びます。
30	第30回 健康的な生活について②	≪良い習慣について≫ 行動を邪魔する要因を理解し、運動習慣をつける方法について学びます。 ※『健康なからだをつくる』をテーマに自分のライフスタイルについて考えます。

科目名	運動健康論		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤 浩明			
開講期	通年			
授業概要	<p>生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性を理解し、生涯にわたり自分の健康や体力に配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技、講義を通じて学びます。</p> <p>①運動と健康の関連を理解し、健康の在り方について学びます。 ②スポーツの意義を理解し、人間力について学びます。 ③運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ④運動を通して、基礎体力の維持、向上する方法について学びます。</p>			
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける			
受講資格	家政学部 食物栄養学科 1年生 ※教職課程履修者は必修	成績評価 方法	平常点30点（取組姿勢） 試験・提出物70点（実技・レポート） ※本科目は実技を含むため、出席、積極的な取組みも重視します。	
教科書	特になし（必要に応じて資料等を配布します）			
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：財団法人日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメソッド：高橋書店」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」			
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）			
オフィスタイム	火・水・木9:00～16:00まで創学館N04研究室 佐藤			
自学自習	【事前】急激な運動は怪我の恐れがあるので、ストレッチや軽くジョギングなどでウォーミングアップを20分すること。講義は当日の授業内容を参考書等で確認しておくこと（1時間） 【事後】運動後は怪我防止と疲労を残さないため、軽くジョギングした後にストレッチをして、クールダウンを20分すること。講義は授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明 ②服装、準備物の確認（注意事項含む） ③グループ分け
2	縄跳び①/からだづくりの運動	<p>【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動 ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
3	縄跳び②/からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
4	縄跳び③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
5	フライングディスク③/からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
6	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
7	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
8	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
9	フライングディスク③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
10	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
11	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
12	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>
13	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	ソフトバレーボール③/からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃
15	実技のまとめ	《まとめとして実技試験を行う》 ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②レクリエーションゲーム ③実技試験 ④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑤体育館清掃
16	第16回 オリジナルについて	オリジナルの歴史と現状 オリジナル、オリジナル憲章について学び、スポーツの持つ魅力について学びます。
17	第17回 生活と健康について①	《健康とは何か》 健康について考える導入として、「健康の定義」をWHO（世界保健機関）の憲章をふまえ、様々な角度から学びます。
18	第18回 生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》 ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し、運動との関係について学びます。 ②運動・休養と健康について学びます。
19	第19回 生活と健康について③	《大学生の健康》 大学生の生活に潜む危険要因について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。
20	第20回 生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》 スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。
21	第21回 生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う ②観る ③支える ④調べるの視点から学びます。
22	第22回 生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》 大学生になり高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康に興味を持ち、運動やスポーツにどう関わることができるかについて学びます。
23	第23回 スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》 スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常生活や、普段の行動にも通じるものがあります。 ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。
24	第24回 スポーツから学ぶ②	《メンタルトレーニング》 常に結果が求められるスポーツ選手（アスリート）のメンタルトレーニング、ポジティブシンキング、行動基準について学びます。
25	第25回 スポーツから学ぶ③	《目標設定》 スポーツ選手（アスリート）の行動基準から自分の目標設定の方法について学びます。
26	第26回 健康増進のための身体運動について①	《体力とは》 ①体力の概念と体力要素（身体的要素 精神的要素）について学びます。 ②運動の原理原則について理解し、効果的な運動の方法について学びます。
27	第27回 健康増進のための身体運動について②	《エクササイズの方法について》 健康の保持増進やからだをつくるための方法（①有酸素運動 ②筋力トレーニング ③ストレッチ ④バランス等）や実施する際のポイントについて学びます。
28	第28回 コンディショニングについて	《からだの調子を良くする・怪我の予防・対処方法》 ①コンディショニングを崩す原因を理解し予防方法について学びます。 ②怪我の予防、応急処置の基本、熱中症対策について学びます。
29	第29回 健康的な生活について①	《ライフスタイルについて》 自分のライフスタイル（生活習慣・運動習慣）を客観的に理解し、健康的な生活を過ごすための方法について学びます。
30	第30回 健康的な生活について②	《良い習慣について》 行動を邪魔する要因を理解し、運動習慣をつける方法について学びます。 ※『健康なからだをつくる』をテーマに自分のライフスタイルについて考えます。

科目名	情報処理演習	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	前期		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。		
受講資格	なし。	成績評価方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。欠席1回につき3点を減じる。遅刻・早退はそれぞれ1点を減じる。
教科書	つくりたい!がカタチになる 学生のための Office2016&情報モラル、noa 出版 (2016)		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 木曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koryama-kgc.ac.jp		
自学自習	予習 授業該当箇所の動画をオフィスソフトを操作しながら見る。(約1時間) 復習 教科書の練習問題を実施する。(約1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、To, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。
4	課題1	インターネット(ブラウザ・メールなど)の用法について、正しく利用できるか確認をする。 教材のダウンロード http://www.noa-prolab.co.jp/shp/download/
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。
9	Excelによる表計算の基礎	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、計算を行う上での数学とコンピュータ上の規約の差異などを学ぶ。
10	データ入力とアドレス	効率的なデータ入力を行うためのフィルハンドルの用法を学び、具体的な数値の作成練習を行う。また表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ。

平成29年度

科目名	情報処理演習	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザイン コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政 学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	古山 幹雄		
開講期	前期		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。		
達成目標	1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。		
受講資格	なし。	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。欠席1回につき3点を減じる。遅刻・早退はそれぞれ1点を減じる。
教科書	つくりたい! がカタチになる 学生のための Office2016&情報モラル、noa 出版 (2016)		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	家政学館4階 No1情報処理教育研究室 月曜日：I限(8:50~10:20) 16:00~17:05 水曜日：I限(8:50~10:20) II限(10:30~12:00) 16:00~17:05		
自学自習	予習 授業該当箇所の動画をオフィスソフトを操作しながら見る。(約1時間) 復習 教科書の練習問題を実施する。(約1時間)		

~授業内容とスケジュール~

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、To, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。 また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。
4	課題1	インターネット(ブラウザ・メールなど)の用法について、正しく利用できるか確認をする。 教材のダウンロード http://www.noa-prolab.co.jp/shp/download/
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。
9	Excelによる表計算の基礎	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、計算を行う上での数学とコンピュータ上の規約の差異などを学ぶ。
10	データ入力とアドレス	効率的なデータ入力を行うためのフィルハンドルの用法を学び、具体的な数値の作成練習を行う。また表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ

平成29年度

科目名	情報処理演習	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザイン コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政 学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	古山 幹雄		
開講期	前期		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする（履修カルテの評価項目）。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。		
受講資格	なし。	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。欠席1回につき3点を減じる。遅刻・早退はそれぞれ1点を減じる。
教科書	つくりたい!がカタチになる 学生のための Office2016&情報モラル、noa 出版 (2016)		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	家政学館4階 No1情報処理教育研究室 月曜日：I限 (8:50~10:20) 16:00~17:05 水曜日：I限 (8:50~10:20) II限(10:30~12:00) 16:00~17:05		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、To, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。
4	課題1	インターネット（ブラウザ・メールなど）の用法について、正しく利用できるか確認をする。 教材のダウンロード http://www.noa-prolab.co.jp/shp/download/
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。
9	Excelによる表計算の基礎	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、計算を行う上での数学とコンピュータ上の規約の差異などを学ぶ。
10	データ入力とアドレス	効率的なデータ入力を行うためのフィルハンドルの用法を学び、具体的な数列の作成練習を行う。また表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ

科目名	キャリアデザインⅠ	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡		
開講期	後期		
授業概要	「キャリア」(人生・生涯)は、選択および選択の結果生じる役割の連鎖によって形成されますが、それをコントロールするためには、自分自身と自分がこれから進む世界を正しく認識し、望ましい職業観・勤労観に基づいて進路選択を行う必要があります。特に女性の場合は、男女共同参画社会においてライフ・ワークバランスの舵取りをすることが、キャリア形成にとって重要な意味をもつようになってきました。これらのことを踏まえつつ、本講義では、まず自分の進路に対する意識を高めるための動機づけを行い、さらに進路情報の理解、および自己情報の理解を試みます。最後に、職業と労働に焦点を絞り、具体的な進路選択に向けた準備を実施します。		
達成目標	本学におけるキャリア教育は、「一人一人の社会的自立に向け、生涯を通して自己を磨き続けることができる能力を育成するための教育」と定義されます。本授業では、このようなキャリア教育の一環として、就職や労働に限定しない幅広い視点から自己の進路について考えることで、「つくる力」(創造力、論理的思考力、表現力)と「かかわる力」(主体的行動力、コミュニケーション能力、倫理・道徳観)を身に付け、主体的にライフキャリアを構築できるようにします。 授業終了時の達成課題は、自分の夢を実現するための具体的な目標を自主的にレポートにまとめることができる、です。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	出席状況(2/3以上)と提出物(第6回授業の課題レポートと第14回授業のレポートなど)から「認」評価を判定する。
教科書	教材集(『キャリアデザイン』)を配布		
参考書	授業中に適宜提示する。		
学生への要望	・新聞やインターネットなどのメディアには、有益な進路情報がたくさん掲載されています。定期的に目を通すことで、労働環境や職業社会の実態を把握し、自分の意見を整理してみましょう。 ・自分自身の進路について、周囲の友人や家族と日常的に話してみましょう。また、身近にいる社会人から仕事や家庭生活に関する話を聞いてみることも、進路を考える上でヒントになります。		
オフィスタイム	桑野は、火曜・水曜のⅡ時限目(10:30~12:00)考古学研究室 その他の担当教員については、各人の指示に従ってください。		
自学自習	半期15回全体のスケジュールを把握し、今自分が何をすべきなのかを考えることが大事です。予習として教材集をよく読み、授業時に配布された資料や提出物をきちんとファイリングすることに気を付けましょう。そして、成績評価に必須の二つのレポートをはじめとする課題の提出期日と提出の際のマナーに気を配りましょう。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション-キャリアデザインの意義と目的 4月11日	本講義の目的・意義・内容・計画を理解した上で、「キャリア」とは何か、「キャリアをデザインする」とはどういうことかを考える。
2	郡山女子大学を知ろう-建学の精神と学園の歴史 4月18日	学園の歴史と建学の精神の基本的な考え方を解説する。
3	「かかわる力」を育てる(1)-社会人としての素養を身に付ける 4月25日	大学生として学ぶための準備として、社会人としてのマナー(携帯電話・パソコン・コミュニケーション)に関する知識を学ぶ。
4	「つくる力」を育てる(1)-情報を読む力・まとめる力 5月2日	講義から情報を読む力(聴く力・ノートにまとめる力)をトレーニングする。
5	「つくる力」を育てる(2)-書く力・伝える力の育成 5月9日	レポートの書き方を手掛かりに事実と意見の違いや「きちんと考える」ことの必要性を確認する。
6	「つくる力」を育てる(3)-仕事でのパソコン活用マナー 5月16日	メール作成の方法、添付ファイルの方法、パソコンによるレポート作成の方法を基礎から学ぶ。
7	「かかわる力」を育てる(2)-働くことを考える 5月23日	職業選択理論(マッチング理論・ライフキャリアの虹など)を解説し、職業レディネステストを実施して分析する。
8	「かかわる力」を育てる(3)-仕事を考える 5月30日	前回の職業レディネステストを踏まえたフォローワークを実施する。個人とグループでさまざまな職業を知り、業種・職種区分など仕事を考えるワークを実施する。
9	「かかわる力」を育てる(4)-女性のライフコースの多様化 6月6日	女性のライフコースの多様な選択肢をワークライフバランスに着目して考える。
10	「かかわる力」を育てる(5)-働くためのルール 6月13日	労働法の基礎知識から働く上での諸問題への対応方法を考える。
11	「かかわる力」を育てる(6)-アサーショントレーニング① 6月20日	堂々と自分の意見を述べるために必要なアサーションの考え方の基本を学ぶ。
12	「かかわる力」を育てる(7)-アサーショントレーニング② 6月27日	アサーションの技術を向上させる。I・Youメッセージを学ぶ。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	総合演習(1) ー女性と就業 について① 講演 7月4 日	外部講師による講演を実施する。
14	総合演習(2) ー女性と就業 について② グループ討論 7月11日	前回の外部講師の講演を踏まえて討論し、レポートを作成する。
15	まとめ ー自分のキャリア を創ろう！ 7月18日	自己評価票の記入・授業アンケート、フリートークによる振り返りなどを実施する。

科目名	キャリアデザインⅠ	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡		
開講期	後期		
授業概要	「キャリア」(人生・生涯)は、選択および選択の結果生じる役割の連鎖によって形成されますが、それをコントロールするためには、自分自身と自分がこれから進む世界を正しく認識し、望ましい職業観・勤労観に基づいて進路選択を行う必要があります。特に女性の場合は、男女共同参画社会においてライフ・ワークバランスの舵取りをすることが、キャリア形成にとって重要な意味をもつようになってきました。これらのことを踏まえつつ、本講義では、まず自分の進路に対する意識を高めるための動機づけを行い、さらに進路情報の理解、および自己情報の理解を試みます。最後に、職業と労働に焦点を絞り、具体的な進路選択に向けた準備を実施します。		
達成目標	本学におけるキャリア教育は、「一人一人の社会的自立に向け、生涯を通して自己を磨き続けることができる能力を育成するための教育」と定義されます。本授業では、このようなキャリア教育の一環として、就職や労働に限定しない幅広い視点から自己の進路について考えることで、「つくる力」(創造力、論理的思考力、表現力)と「かかわる力」(主体的行動力、コミュニケーション能力、倫理・道徳観)を身に付け、主体的にライフキャリアを構築できるようにします。 授業終了時の達成課題は、自分の夢を実現するための具体的な目標を自主的にレポートにまとめることができる、です。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	出席状況(2/3以上)と提出物(第6回授業の課題レポートと第14回授業のレポートなど)から「認」評価を判定する。
教科書	教材集(『キャリアデザイン』)を配布		
参考書	授業中に適宜提示する。		
学生への要望	・新聞やインターネットなどのメディアには、有益な進路情報がたくさん掲載されています。定期的に目を通すことで、労働環境や職業社会の実態を把握し、自分の意見を整理してみましょう。 ・自分自身の進路について、周囲の友人や家族と日常的に話してみましょう。また、身近にいる社会人から仕事や家庭生活に関する話を聞いてみることも、進路を考える上でヒントになります。		
オフィスタイム	桑野は、火曜・水曜のⅡ時限目(10:30~12:00)考古学研究室 その他の担当教員については、各人の指示に従ってください。		
自学自習	半期15回全体のスケジュールを把握し、今自分が何をすべきなのかを考えることが大事です。予習として教材集をよく読み、授業時に配布された資料や提出物をきちんとファイリングすることに気を付けましょう。そして、成績評価に必須の二つのレポートをはじめとする課題の提出期日と提出の際のマナーに気を配りましょう。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション-キャリアデザインの意義と目的 4月11日	本講義の目的・意義・内容・計画を理解した上で、「キャリア」とは何か、「キャリアをデザインする」とはどういうことかを考える。
2	郡山女子大学を知ろう-建学の精神と学園の歴史 4月18日	学園の歴史と建学の精神の基本的な考え方を解説する。
3	「かかわる力」を育てる(1)-社会人としての素養を身に付ける 4月25日	大学生として学ぶための準備として、社会人としてのマナー(携帯電話・パソコン・コミュニケーション)に関する知識を学ぶ。
4	「つくる力」を育てる(1)-情報を読む力・まとめる力 5月2日	講義から情報を読む力(聴く力・ノートにまとめる力)をトレーニングする。
5	「つくる力」を育てる(2)-書く力・伝える力の育成 5月9日	レポートの書き方を手掛かりに事実と意見の違いや「きちんと考える」ことの必要性を確認する。
6	「つくる力」を育てる(3)-仕事でのパソコン活用マナー 5月16日	メール作成の方法、添付ファイルの方法、パソコンによるレポート作成の方法を基礎から学ぶ。
7	「かかわる力」を育てる(2)-働くことを考える 5月23日	職業選択理論(マッチング理論・ライフキャリアの虹など)を解説し、職業レディネステストを実施して分析する。
8	「かかわる力」を育てる(3)-仕事を考える 5月30日	前回の職業レディネステストを踏まえたフォローワークを実施する。個人とグループでさまざまな職業を知り、業種・職種区分など仕事を考えるワークを実施する。
9	「かかわる力」を育てる(4)-女性のライフコースの多様化 6月6日	女性のライフコースの多様な選択肢をワークライフバランスに着目して考える。
10	「かかわる力」を育てる(5)-働くためのルール 6月13日	労働法の基礎知識から働く上での諸問題への対応方法を考える。
11	「かかわる力」を育てる(6)-アサーショントレーニング① 6月20日	堂々と自分の意見を述べるために必要なアサーションの考え方の基本を学ぶ。
12	「かかわる力」を育てる(7)-アサーショントレーニング② 6月27日	アサーションの技術を向上させる。I・Youメッセージを学ぶ。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	総合演習(1) ー女性と就業 について① 講演 7月4 日	外部講師による講演を実施する。
14	総合演習(2) ー女性と就業 について② グループ討論 7月11日	前回の外部講師の講演を踏まえて討論し、レポートを作成する。
15	まとめ ー自分のキャリア を創ろう！ 7月18日	自己評価票の記入・授業アンケート、フリートークによる振り返りなどを実施する。

科目名	キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	前期		
授業概要	<p>【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。</p> <p>【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感して、勤労について総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、それを今後の学生生活の中に活かしていくことで新たな学習意欲の契機となることを目標とします。</p>		
受講資格	特になし	成績評価方法	就業体験50%・授業参加30%・報告会20%から「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップから学習への喚起となり、課題発見力を身に付けましょう。自分の変化や成長を実感できる機会です。新たな挑戦で、自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日9:00～12:30 水曜日9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		
自学自習	事前学習のビジネスマナーは練習を繰り返し、実践を通して活用できるようにして下さい。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・企業研究 4/22(Ⅲコマ目) 642教室	インターンシップの概要説明で理解を深める。それぞれの業界・職業の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出。
2	インターンシップの心構え 4/22(Ⅳコマ目)□	インターンシップの取り組みを画像で見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。 (ムビケーションの実施)
3	企業を知るⅠ(求められる人材)講演6/20(Ⅵコマ目)	身近な経営者の講演を実施する。変化を受け入れ、新しいマーケティングアイデアを考える姿勢から、今企業で求められている人材を考えていく。
4	事前学習 マナー講座 7/24(Ⅰコマ目)□	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。また、就業体験先の決定をする。
5	事前指導 ビジネス文書作成 7/24(Ⅱコマ目)□	メールと封書でのお礼状の書き方・履歴書の書き方を理解して実践できる。
6	インターンシップ(就業体験)	各企業において、夏季休業中に3日間のインターンシップ(就業体験)を行います。
7	インターンシップ報告会 9/6(Ⅰコマ目)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。
8	インターンシップ報告会 9/6(Ⅱコマ目)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。実習日誌を提出する。

科目名	キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	前期		
授業概要	<p>【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。</p> <p>【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感して、勤労について総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、それを今後の学生生活の中に活かしていくことで新たな学習意欲の契機となることを目標とします。</p>		
受講資格	特になし	成績評価方法	就業体験50%・授業参加30%・報告会20%から「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップから学習への喚起となり、課題発見力を身に付けましょう。自分の変化や成長を実感できる機会です。新たな挑戦で、自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日9:00~12:30 水曜日9:00~12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		
自学自習	事前学習のビジネスマナーは練習を繰り返し、実践を通して活用できるようにして下さい。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・企業研究 4/22(Ⅲコマ目) 642教室	インターンシップの概要説明で理解を深める。それぞれの業界・職業の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出。
2	インターンシップの心構え 4/22(Ⅳ コマ目)□	インターンシップの取り組みを画像で見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。(ムビケーションの実施)
3	企業を知るⅠ(求められる人材)講演6/20 (Ⅵコマ目)	身近な経営者の講演を実施する。変化を受け入れ、新しいマーケティングアイデアを考える姿勢から、今 企業で求められている人材を考えていく。
4	事前学習 マナー講座 7/24 (Ⅰコマ目) □	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。また、就業体験先の決定をする。
5	事前指導 ビジネス文書作成 7/24 (Ⅱコマ目) □	メールと封書でのお礼状の書き方・履歴書の書き方を理解して実践できる。
6	インターンシップ(就業体験)	各企業において、夏季休業中に3日間のインターンシップ(就業体験)を行います。
7	インターンシップ報告会 9/6 (Ⅰコマ目)	事後報告会として、 企業の方をお招きして報告会を実施する。
8	インターンシップ報告会 9/6 (Ⅱコマ目)	事後報告会として、 企業の方をお招きして報告会を実施する。実習日誌を提出する。

授業計画書 (Syllabus)

科目名	芸術鑑賞講座・教養講座		必修 選択	担当教員氏名		研究室	
対象	学科名	全学科		開講期	通年・前期・後期	単位数	0.5単位
授業目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>芸術は人間存在や世界の真相をありありと感じさせるものである。高度な芸術に接して感動することにより、人間として最も大切な感性を磨き、豊かな人間性を育てる。</p> <p>教養は個々の専門知識を縦横に関連づけ、創造的な思考を導くものである。一流の文化人の講演を聴き、個々の人生について深く思考する力をつける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>芸術鑑賞講座として、年に4回、一流のアーティストや作品を学内に招き、全学で感動を共有する。</p> <p>教養講座として、年に3回、一流の文化人を招き、全学で講演を聴く。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕</p> <p>心豊かな、人の役に立つ人生について、考えを深める。</p>						
(教職課程)	<p>「日本国憲法」「体育(理論・実技)」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」「教科に関する科目」「教職に関する科目」のいずれかに該当する科目については、評価項目を記載して下さい。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p>						
受講資格	本学の全学生			成績評価方法	レポート		
教科書	リーフレット、講演資料			学生への要望	自分でも積極的に調べ、毎回きちんと感動および考えを文章にすること		
参考書	図書館で関連図書を展示する						
オフィスアワー							

〔授業内容とスケジュール〕

回数	タイトル	授業内容
1	芸術鑑賞講座	野口勝宏氏 写真展「福島の花／東北の花」(4月3日～4月12日)
2	教養講座	矢部洋三氏(元日本大学教授) 講演「中条家三代一安積開拓への想い」(4月22日)
3	芸術鑑賞講座	桂歌丸師匠 in 郡山女子大学(5月16日)
4	教養講座	新美昌道氏(裏千家淡交会) 講演「演題未定」(6月28日)
5	教養講座	尾関宗園氏(大仙院住職) 講演「演題未定」(9月22日)
6	芸術鑑賞講座	「琳派絵画作品展」(10月3日～10月8日)
7	芸術鑑賞講座	人形劇団ひとみ座「リア王」(10月31日)
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		